

さくら通信

寮生刺繍ポーチ特集号



約15年前に作成されたさくら寮生（モン族）の刺繍ポーチの逸品。今でも三輪が大切に使っている。

42

さくら通信第42号 編集：さくらプロジェクト 2011年9月5日発行
SAKURA PROJECT 364/1 M3 B. NAMLAT T. RIMKOK A. MUANG C. CHIANGRAI THAILAND 57100

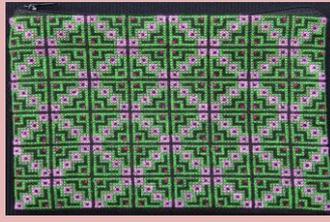
さくらっ子たちの刺繍ポーチ

10月のグローバルフェスタで販売予定（600円～）です。予約済み、売り切れの場合はご容赦ください。

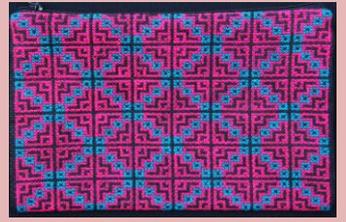
パチャリリー・ベチュ
グ（アカ・高1）



ボンパット・セイリ
ー（リス・中1）



アパボン・ウイセンイン
パイサーン（テカ・中1）



ユツピン・セイリ
ー（モン・中2）



ミチュ・カラー
（アカ・高2）



ナコー・アイソー
（ラフ・中2）



パニー・モポ
（アカ・大3）



ナイー・ジャク
ー（ラフ・小5）



パチャリン・パイ
ー（ラフ・小6）



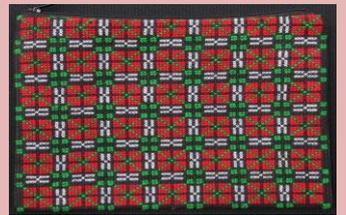
ティダボン・スムグ
（アカ・中2）



ウイチュダー・セイ
りー（リス・小5）



ラッタナー・イエモ
（アカ・中2）



ミチュ・カラー
（アカ・高2）



パニー・モポ
（アカ・大3）



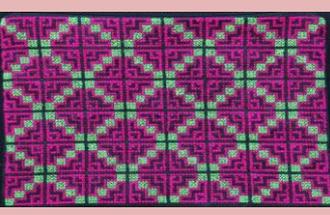
スック・アカ
ー（ラフ・中1）



ユツピン・セイリ
ー（モン・中2）



ハルタイ・センポ
ー（ラフ・小6）



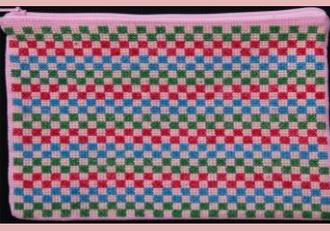
ステイダー・ベチュ
グ（アカ・高1）



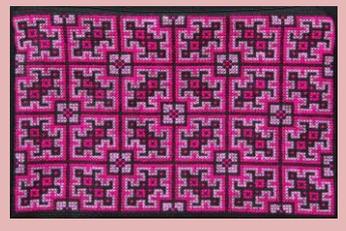
ケオカーン・ヨーポ
ップ（カレン・高2）



パチャリン・パイ
ー（ラフ・小6）



チーワン・セート
ー（モン・中2）



近況

三輪隆



【今年のさくら寮生は85名】

日本はまだまだ厳しい残暑が続いていることと思います。今年は台風や集中豪雨などの被害も多かったと聞いています。

タイでも8月、9月は例年降雨量が多く、洪水や土砂崩れが心配される季節です。

タイの学校は5月中旬に新学期を迎え、子どもたちも村から戻ってきて、さくら寮生85名、エコホーム寮生25名が元気に寮生活を始めました。すみれ館、しらゆり館の旧宿舎から全寮生が新宿舎に完全に移転してから最初に迎えた新学期でした。さくらプロジェクトにとつては21年目の新学期です。

今年も新入寮生の受け入れも最小限に抑えたこともあり、さくら寮生、エコホーム寮生を合わせた総数は110名と、ここ10年間では最少となりました。寮生180名時代のにぎやかさを体験しているスタッフとしては、ホールに集まってイベントをやったり、寮内のスポーツ大会を開いたりしたときに、ちよつとさびしさを感じますが、日本経済の先行きも不透明な今、無理をせずコンパクトな運営をしていきたいと思っています。

今年のはさくらプロジェクト・タイのスタッフは、さくら寮がペン・ジャクションさん、タンヤラット・シースワンさん、シリントラー・パテさん、ラッポン・ワタナソンプン君。さくらエコホームの寮母がワナサナン・サポンさん。日本人現地ボランティアとして今年3年目になる山中俊彦さんに加え、今年、木下奈津季さんが日本から応援にきてくださいました。

昨年訪日した寮生に日本語を教えてくださいましたJICAボランティアの高垣彩子先生も毎週土曜日に日本語を教えてくださいています。

寮生では大学生のノンヌット・パンブーさん、今年ラジャパッド・チェンラーイ大学に入学したメー・センヌワンさん、ナルモン・セドウクさん、ナシー・ジャトーさんら日本にも行ったことのある年

長の寮生たちが、寮内スポーツ大会や、さくらホールでの交流イベントなど为中心的な役割を担って寮生たちをまとめてくれています。

【第25回「タベ」開催される】

6月18日、東京芝浦工業大学豊洲校舎にて第25回「タイ山岳民族の暮らしを考えるタベ」が開かれました。

当日はさくらプロジェクト顧問で芝浦工大名誉教授の畑聰一先生、さくらプロジェクトの新事務局長で芝浦工大准教授の清水郁郎先生をはじめ、里親、支援者のかたがた、清水研究室の学生のみならずほか約50名が参加され、盛況のうちに終わりました。



「タベ」で挨拶する畑先生



「タベ」会場に開店したさくら民芸品店にて

「タベ」では畑先生の御挨拶のあと、事務局の風間さんの会計報告、三輪によるさくらプロジェクト20年間のタイの社会・経済状況の変化とさくら寮の運営についての報告に続いて、ビデオ・ドキュメンタリー2作品の上映がありました。まずは金沢大学文学部准教授の西本陽一先生と映像作家の服部一人さんによる共同制作の『エポというやつ』(2009年)これはミャンマーやタイに住むキリスト教ラフ族の間で今も伝説的に聴き継がれているラフ族のカリスマ的シンガー・ソングライター、エポ(1998年没)の生い立ちから青年期の奔放な生活、若くしての死にいたるまでの波乱の生涯

↓「タベ」の後の懇親会場で記念撮影



を追った興味深いドキュメントでした。西本先生はラフ族の研究の第一人者で、さくらプロジェクトの支援者でもありません。もう一本は芝浦工業大学の清水郁郎先生

生の『しずかな生活』(2008年)。タイの山地で暮らすアカの一組の老夫婦に焦点をあて、夫婦の日々の生活の断片と、彼らへのいくつかのインタビューから構成されたビデオ作品。「古い」そして「幸福とは」をテーマにしています。

作品の舞台になったチェンライのアカ族の村に数度にわたって長期滞在しフィールドワークを行った清水先生らしい思い入れが随所に見られ、淡々とした構成の中にもしみじみとした感動を覚える作品でした。

「タベ」終了後の懇親会では日本であらためてさくらプロジェクト20周年祝賀会となりました。大阪からは元ボランティアスタッフの志賀宏君も駆けつけてくれました。

【マリー・パンブーさんを応援しよう】

さくら寮生で現在小学校5年生のマリー・パンブーさん(ラフ族・11歳)が今年10月に心臓の手術を受けることになりました。

マリー・パンブーさんの体調に異変があったのは今年の3月の学期休み中のこと。頭にひどい湿疹ができ、また疲れやすく、呼吸が困難になるなどの急性症状が現れて緊急に入院したところ、何度かの精密検査の結果、心房中隔欠損(しんぼううちゅうかくけつそん)という疾患を



マリー・パンブーさん

もっていることがわかりました。心房中隔欠損(Atrial Septal Defect, ASD)は心臓の右心房と左心房を隔てる心房中隔という壁の部分に穴が開いた病気で、マリーさんの場合は直径2センチほどの穴があいているとのこと。

先天性の場合、乳幼児期ならば自然に穴がふさがるケースもあるそうですが、マリーさんの治療には外科的手術が必要ということで、チェンライには手術が可能な公立病院がないため、チェンマイの公立病院、マハラート・ナコン病院を紹介されました。ナハージョイ基金のもとになったあのナハさんが再生不良性貧血の治療のために入院していた病院です。何度か検査を受けた結果、10月17日にチェンマイ・マハラート・ナコン病院で手術が行われることになりました。

現在のマリー・パンブーさんの健康状態は比較的良好で、寮で友人たちと一緒に生活し、学校に通学しながら10月の手術に備えて虫歯の治療や皮膚病の治療、体力の向上に努めています。10月13日

に最終的な検査をし、体力、健康状態に問題がなければ、17日に実施される予定です。手術に当たっては輸血が必要で、すでに年長のさくら寮生たち数名が献血に名乗りを上げてくれています。

治療、入院などに関連する経費はナハ基金を使わせていただく予定ですが、みなさまからも新たにナハ基金へのご協力をお願いする次第です。

【訃報】

3年前までさくらプロジェクトの日本事務局を担当して下さっていた久富静江さんが亡くなられました。

5月26日、日本事務局代表の風間さんから里親会のメーリングリストに訃報が届けられました。「今夜は皆様にとっても悲しいお知らせをお伝えしなくてはなりません。2002年春から2008年9月までさくらプロジェクト日本事務局で久富淳司さんとともに中心的な活躍をしていたいただいた久富静江さんが5月25日（水曜日）の夜、お亡くなりになりました。静江さんは2000年に白血病を発症し、骨髄移植を経て、今日まで11年間にわたり拒絶反応に付随する様々な病気と闘ってきました。（中略）ただただご冥福をお祈りするばかりです」

10年以上前、はじめて久富淳司さん、静江さんご夫妻とチェンライイでお会い



2007年4月寮生訪日時の久富静江さん（前列右）

したときのことを今でも昨日のこのように鮮明に覚えています。この出会いもまた、故・中村清彌さんを介しての不思議な縁によるものでした。

チェンライイの旧さくら寮（今はもうさくらプロジェクトの手を離れましたが、当時のすみれ館）にお二人でバイクに乗っていらつしやいました。小柄だけれどとてもお元気で活動的な女性というのが第一印象でした。

「さくらの子どもたちとって、本の扱いが雑ですぐにびりびりに破いてしまうんですよ」と私がつまらない愚痴をいいますと、「いえ、多少扱いが悪くても、子どもは本を読んでもくれるだけありがたいんですよ」と、アドバイスをいただきました。静江さんは図書館の司書、本のプロの言葉には説得力がありました。

ナハさんが再生不良性貧血という難病に倒れたときに自然に立ちあがった里親会のネットワークの中で、淳司さんともにも中心的な役割を担っていただくようになり、ナハー・ジョイ基金の基を作ってくださいました。けれどもナハさんが亡くなったその直後、静江さん自身が白血病に倒れてしまいました。

苦しい闘病生活の中、その後も日本事務局の一員として煩雑で面倒な事務作業をこなして下さり、ジョイさんが闘病を開始したときは、治療費を募る活動に力を注いでくださいました。いつも弱者の視線で世界を見つめていらつしやいました。ジョイさんにも何度もやさしい励ましの手紙をくださいました。ジョイさんもとても勇気づけられ、彼女の自室の壁には最後まで静江さんからの手紙が貼られていました。

また、2007年、横浜のあーすプラザでの三輪の写真展「タイ・山地民の生活と文化」を企画していただき、おからだの状態が万全ではないなか、タイにいる三輪に代わって写真、ネルの制作やキヤプション作り、広報活動など、全面的にご尽力いただき、盛況のうちに開催することができました。

また2000年の寮生初訪日ときは、ホームステイのホストファミリーとしてカンボン君を泊めてくださり、またさくら寮の子どもたちにバイキングの食事を「ごちそうしてくださいさったり、本当にいろいろお世話になりました。」

【刺繍ポーチと梅エキス購入のお願い】

さくら寮生には決まった額のお小遣いが支給されているわけではありません。日々のおやつ代、そして日用品の一部については自分で買わなければなりません。



日曜日の午前中、さくらホールで刺繍をする寮生たち。

お小遣いも親からもらえる子とそうでない子があり、その額もまちまちです。一か月に500バーツ、1000バーツともらっている子もいれば、100バーツももらえない子もいて、なかには下着や石鹸、生理用品をかうお金にさえこと欠く子もいます。

さくらプロジェクトでは、寮生活の中で空いた時間を利用して子どもたちが刺繍ポーチを作り、その販売による収益を子どもたちのお小遣い資金として還元しております。刺繍は自分の民族の伝統的模様や他民族から学んだパターンや技術をもとにそれぞれの個性やアイデアを生かして自由にデザインしたものです。(今号カラーページ参照) 売上げの60%(約100バーツ)が刺繍の作者に渡され、残りを布や糸などの材料費購入、そしてミシンなど寮での備品購入費などに充てています。

もうひとつ、寮生たちのお小遣い稼ぎの一環として数年前から進めている活動に梅肉エキス製造があります。

きっかけは、数年前、山地民の栄養状態の調査にこられた大阪・千里金蘭大学生活科学部教授の平井和子先生から、タイ北部の高地で梅が栽培されていることを知り、これを加工して梅肉エキスを製造販売したらというアドバイスをいただいたことでした。

梅肉エキスとは、新鮮な青梅をつぶした汁を弱火で長時間も煮詰めていき、最後に残った黒い液体のことです。青梅1キロあたりから20〜30グラム程度しかできない貴重なエキスで、日本でも胃腸を丈夫にする食薬として珍重されてきました。

寮生たちの実家があるいくつかの村でも、気候条件が適していて梅を栽培しているところがありますが、これまであまり買い手がつかず、立派な梅が実っても収穫もせずそのまま放置してあるような



タイの梅 (無農薬)

村もありました。梅エキスの生産が少しでも村の人たちや寮生の収入の足しになればと思います。

毎年3月初め頃に行われる梅エキス作りについては以前のさくら通信号でも紹介したことがあります。始めた頃は作り方もよくわかりませんが、毎年梅エキス作りを繰り返しながら、毎年梅エキス作りを続け、研究と試供品用に平井先生にお送りしていたのですが、このたび「さくら梅肉エキス」として支援者のみなさまに販売させていただくことになりました。平井和子先生によれば、梅肉エキスの

薬効は以下のようなものです。

「梅には殺菌効果、血液浄化、活力増進、疲労回復など多岐にわたる薬効があり、アトピー・性皮膚炎の改善にも効果があることが報告されています。近年、血流改善効果のあるムメフラールが発見され、エキスを1日に1〜3グラム摂取で

7人中5人(71.4%)に動脈硬化の改善が認められています。また糖尿病罹患者(6人)の場合にも、エキスを1日1〜3グラム摂取で血糖値やヘモグロビンA1cが減少し、血圧も低下しています。梅エキスは梅のしぼり汁を加熱して濃縮したもので、塩分は無添加です。梅実由来の塩分だけで含量は非常に少なく、

高血圧の場合にも安心して摂取できます。エキスを1日に1〜3グラム摂取することによって生活習慣病の予防と改善に役立てていただきたいと思います」

梅エキスの価格は、100グラム入り 3000円、150グラム入り 3900円、300グラム入り 6600円程度を予定しております。

購入ご希望のかた、ご興味をおもちのかたはさくらプロジェクト・タイ事務局までご連絡ください。

【今年もグローバルフェスタ参加】

今年も10月1日、2日に、日比谷公園にて恒例のグローバルフェスタが行わ

れます。さくらプロジェクトも参加します。今年も昨年に引き続きさくらプロジェクト・タイからも応援に駆けつけることになりました。メンバーはさくら寮のスタッフのタンヤラット・シースワンさん、寮生のパチャリー・ベセクさん、そして三輪の3名です。

今年も子どもたちの刺繍ポーチをはじめめとしてたくさんの方の山岳民族民芸品を用意しました。ぜひ遊びに来てください。お待ちしております。

十月一日 土曜日 午前10時〜午後五時
十月二日 日曜日 午前10時〜午後五時
場所 日比谷公園(東京都千代田区)
交通 地下鉄日比谷駅より 徒歩2分
JR有楽町駅より 徒歩4分

*さくらプロジェクトのブースの位置については会場配布されるパンフレットのマップをご参照ください。



今年もグローバルフェスタ、そして関西で会いましょう！

今年、グローバルフェスタに合わせて訪日するスタッフ、寮生を紹介します。

タンヤラット・シースワンさんは1998年、中学校1年のときさくら寮に入寮。サハサートスクサー・スクール、チエンラーイアチワ職業専門学校簿記科を経てラチャモンコン工科大学を卒業するまで10年間さくら寮に在寮し、卒業後、さくらプロジェクトのスタッフになりました。とても努力家で責任感が強く、さくらプロジェクトの実務面を堅実に支え



タンヤラットさん



パチャリーさん

てくれています。

パチャリー・ベセクさんは2005年、小学校4年生のときに入寮、今年で在寮7年目です。今年の春、チエンラーイでは1、2を争う進学校のダムロン高校理数科に見事合格しました。実は小学校に上がるときも一度さくらプロジェクトの入寮試験を受けているのですが、試験の最中にホームシックにかかって泣き出したため合格せず、4年後に再び応募して見事入寮試験に合格しました。小さい頃ではおとなしい中にも芯が強く、まじめで優秀な寮生に成長しました。3名の行動予定は以下の通りです。

- 9月30日 タイ航空TG642便で成田空港着 東京都内に滞在
- 10月1日、2日 グローバルフェスタ
- 10月3日 東京デイズニールランド見学
- 10月4日 埼玉県上尾市に滞在
- 10月5日 6日 長野県軽井沢に滞在
- 10月7日〜9日 愛知県豊橋市に滞在
- 10月10日 奈良に滞在 懇親会
- 10月11日、12日 大阪に滞在
- 10月13日 関西空港よりタイ航空TG660便で帰国

グローバルフェスタの1日目目が終了した10月1日の午後6時から、いつものように日比谷シヤンテ地下二階柿安三尺三寸箸日比谷店(電話03・3539・1566)にて懇親会が開かれます。食べ放題(飲み物別)で会費3000円です。東京での懇親会に参加ご希望の方は、さくらプロジェクト・タイ事務局または日本事務局までメールまたは電話にてお問い合わせください。

また、10月10日、11日には奈良、大阪での懇親会を計画しています。

奈良での懇親会は、10月10日午後6時より、パチャリーさんの里親の谷様ご夫妻経営のペンション「奈良倶楽部」にて開催予定です。参加費用は2000円(食事つきですが、差し入れも歓迎)。

参加ご希望のかたは谷様までお問い合わせを。奈良倶楽部の住所と連絡先は以下の通りです。奈良市北御門町21
電話番号・0742-2273450

メールアドレス: naraclub@ken.ne.jp
地図は以下のページを参照ください。
<http://www.naraclub.com/access.html>

大阪での懇親会は難波のタイ料理レストラン「tai thai」にて10月11日午後7時からです。会費はタイ料理+飲み放題で3500円。お問い合わせ、ご予約は「タイタイ」の山川様まで。
電話・06・6643・7573

<http://www.taithai.jp/food/index.html>

また大阪での懇親会のお問い合わせは、勘里奈央さんも受け付けています。電話090・1428・4625 メールアドレス bot-s-bo-4@docomo.ne.jp
東京で、関西で、みなさまとお会いできるのを楽しみにしております。



奈津季のさくら徒然日記

人生初の屋外シャワーも体験！

2011年5月より、木下奈津季さん（立命館アジア太平洋大学休学中）が10カ月間のボランティアスタッフとしてさ

くら寮に滞在しています。月曜日から木曜日まではさくら寮に、木曜日から日曜日はさくらエコホームに滞在して、寮生たちの手紙の翻訳などの事務や子どもたち

ちに日本語を教える仕事をしています。

奔放にして天真爛漫な彼女が見たさくら寮とタイ文化を日記につづつてもらいました。



木下さん（左）とエコホームの子どもたち

さくら寮との出会い
今から約1年前の2010年9月、私が大学2年生になる時期でした。大学に通い続けて1年間、また現実逃避したい日が来たのです。「現実逃避」、私にとって珍しい言葉でも珍しいものでもなんでもありませんでした。当時高校2年生の時にふと、「海外に行かないと、私の人生の意味がない」と思ったのです。

自分の予想図の中には、「43歳、イラクで射殺されて死ぬ」と書いて友達にびっくりされたものです。そう振り返ってみればなんらかの形で今の私に至っているのだと思います。

さて日はさかのぼり、高校2年生の時に中国に1週間、韓国に1カ月短期留学に行き、外国で暮らすことの魅力にひかれて、これまた珍しく高校3年生で5月からタイに10カ月長期留学しました。もちろん担任の先生、多くの友達や親戚の人たちも大反対しましたが、唯一両親は私がそういう人だと気づいていたために留学を許してくれました。そして、みんなが人生で一番ハードといってもいい高校3年生の時代をタイでのんびり過ごしたのです。

確かに海外に惹かれ、たまたま学校の修学旅行がタイのプuketだったこともあって、言い訳としては「タイにすごく惹かれてもっともっと勉強したい」と言うのが表向きの理由でしたが、実際は大学受験からの「現実逃避」だったのだと思います。両親はたぶん薄々気づいていたと思いますが、誰からも「タイに長期留学、ましては高校3年生の受験を控えているときにすごいな」と言われませんでした。タイの留学、それは私にとっては現実逃避するのに最高の時間だったのです。

日本に帰国後、ふと我に返りました。「さて、この先どうしようか」大学には

半年遅れてAO受験で合格し入学しました。私が通う大学にはタイ人も250人ほどいて、タイ語を話す機会も少なくありませんが、あの10カ月の私のタイ語能力では、よく言ってもタイの小学校高学年レベルです。

私は留学していたとき、バンコクで目のあたりにした「貧富の差」を思い出しました。当時交換留学生でタイに行っていた私は、何の助けも出来なかった。ただ見て見ぬふりをするか、少し小銭を渡して、次の人に会うと心の中で「すみません。」と思ひ込めなかつたのです。3年前自分の中に残っていた何も出来なかつた自分への罪悪感をどうにかしたいと思っていました。そして去年ふと「よ



奈津季さん（右）とエコホーム寮母のブンさん



奈津季さん（右）とエコホームの子供たち

し、休学してタイでボランティアするぞ」と思いついたのです。そしてインターネットで検索、約3時間いろいろ調べました。そして留学時代に一度訪問したことがある、チェンマイのあるボランティア団体に相談しようとも思いました。でも、チェンマイは都会ですので、もっと地方に行きたいと思いました。チェンマイのNGOで検索すると何件か出てきて、チェンマイでは有名なM財団などに問い合わせをしました。そしてさくらプロジェクトのホームページを見つけ、問い合わせしました。他のNGO団体からは、即座に「是非、来てください」と言われましたが、三輪さんだけは「趣味や特技を教えてください」とか「本当にあなたがやりたいことがここでできそうなの

か、一度訪問してから決めてはいかがですか」だとか、数回に渡ってお返事いただきました。私としては、「この人は何か違うものを感じる。よし、こうなったら行くしかない」と思い、バイトで貯めたお金で2011年2月にさくら寮にやってきましたのです。

最初のさくら寮初訪問

最初の訪問では2011年2月7日から15日までさくらプロジェクトに滞在し、研修生という形で見学させてもらいました。さくらプロジェクトにとっては、私をボランティアとして受け入れるかどうかを見極める期間だったかもしれせん。

大阪からフィリピンのマニラ、マニラからバンコク、バンコクからチェンマイ、チェンマイからバスでチェンライという長旅としてきた私は初日から疲れ切っていました。バス停からさくら寮まではトウクトウクに乗って自力でやってきました。

さくらに着いた初日から、すでにボランティアスタッフとしていらっしやうっている山中さんに仕事の内容など教えていただきました。11日には三輪さんも含め日本人スタッフ会議なども開かれました。14日には三輪さん、タイ人スタッフとの面接も受けました。15日帰りぎりぎりで仕事をしました。

さくら寮を出る1時間ほど前に三輪さんから「では5月からお願いします」という言葉をいただいたときは、本当に飛び上るほどうれしかったです。研修中に

翻訳した手紙でいきなり苦戦し、翻訳に2時間半ほどかかった私が採用されるはずなどないと思っていたからです。実を言うとタイ語を読めるようになったのも少し前のことで、留学時代遊んでいた私からしたらそれはもう大変でした。「この手紙、ちよつと訳しておいでください」と手紙翻訳を任せられたとき、どれだけ留学時代遊んでいたのが十分身にしました。そして、ウキウキしながら日本に帰りました。正直当初は「三輪さんといっばい対立するだろうな」と心の中で思っていました。実際会って話をしてみるとやはり三輪さんは偉大な人だと感じた。

日本帰国時

研修を終え、いったん日本に帰国し、こちらに来るための交通費や旅行保険費用などのお金を稼ぐため、毎日毎日バイトをしてお金を貯めました。さくら寮からは住む部屋と食事はいただけることになりました。そして日本にいる間にも何通か手紙の翻訳を手伝いました。日本にいるときはバイトでお金を稼ぐということが優先になっていて、いただいた仕事をなかなか終わらせずにいたのが、そのとき三輪さんから「さくらプロジェクトでは子どもと遊ぶだけではなく、事務作業ができ、時間管理などがしっかりできるスタッフを必要としています」とメールが来たときは私も刺激を受けました。たとえ無給ボランティアではあつ



輪ゴム飛びをする子供たち

ても任された仕事はきつちりとやりこなさなければ必要とはされないと、強く実感させられたのです。

ボランティアスタッフとして

それからいざ5月初旬こちらに来て、スタッフとして働くことになりました。最初は慣れなかった仕事も3カ月たった今では、だいぶやりこなせるようになりました。翻訳で追われて大変だった毎日、今は優先順位をつけて一つずつやりこなしていくという方法でやっています。これも大学に通うだけでは経験できないことです。

私と同じ年を迎えたこのさくらプロジ

エクトは本当に素晴らしいところだとつくづく思っています。ときどき、支援物資のチェックの担当もさせていたでいていますが、衣類を寄贈して下さったかたがたからの荷物を一つ一つ開けるたびに感動します。支援物資とともに手紙も入っていることがあり、寄贈されたかたのメッセージを読むたびにいつも温かい気持ちになります。たくさんの支援者がいるということは三輪さんや日本事務局の方々などの20年間の苦労と努力があつてのことだと思えます。3カ月でまだまだ何もできない私ですが、ここでボランティアをさせていただく機会をいただいた三輪さん、スタッフの皆さんに感謝し、残りの時間を有意義に価値あるものにしていきたいと思えます。

5月19日木曜日(エコホーム)

今日夕方3時くらいにブンさん(エコホーム寮母のワナサナン・サボン)と一緒にエコホーム寮に行つた。ここに書いた頃にはもう3時40分で、1時間くらい部屋で休憩した。4時40分、子どもたちの前で少し自己紹介をし、エコホーム寮新入寮生の里親の方々への手紙の翻訳をした。私が翻訳をしている間子どもたちは、ゴム跳びなどをして元気よく遊んでいた。途中で新入寮生の男の子が、エコホーム寮から逃げ出そうとしたので、みんな慌てて止めたが、泣き止まず、ブンさんが怒ってしまい、「出て行きたかったら、勝手にしなさい」といい、男の子はそのまま出て行ってしまった。ブンさんはその子の母に電話した後、玉子焼き

を作ってくれ、夕食を食べた。夕食が終ると、その子どもと母親がエコホーム寮にやってきて、ブンさんと話し合った後、荷物を持って家に帰ってしまった。その後7時頃からみんなで宿題をしたが、何人かが遅れてきたので、ブンさんは説教をしていた。その後シャワーを浴びてブンさんと事務所まで仕事をした後、就寝した。一日目だったせいか、さくら寮とはまた違った雰囲気だと思った。

5月20日金曜日(エコホーム)

今日は7時に起きて、ブンさんと朝ご飯を食べた。その後、さくら寮に行くための準備をして、8時半に出発した。さくら寮に着いてから、翻訳等の仕事をし、12時に昼ご飯をいただいた。その後2時まで仕事をし、雨の中ブンさんとエコホーム寮に戻つた。少し休憩をした後、子どもたちが帰ってきたので、清掃チェックをして、翻訳の仕事を少ししてから、洗いの物をし、ブンさんと一緒にスパゲッティを作つた。7時から食堂で、子どもたちの自己紹介があり、ゲームをした。その後5分ほど瞑想をし、シャワーを浴びてみんなでテレビを観た。みんな純粋でとても可愛い。

5月21日土曜日(エコホーム)

今日は起きて支度していると、三輪さんが寮生たちの写真を撮りにやってきた。その後はみんなで昼ご飯を食べて、お昼寝をして、子どもたちと石遊びをした。子どもたちは石を片足に乗せて飛びながら軽々とコースを回っていたが、実際私

がやると本当に難しいものだ。新入生のケミカーはカタツムリを見つけると、その辺に落ちてあつた石をとって、カタツムリの解体を始めたので、それにはビックリした。その後みんなで夕食をいただき、7時から英語の勉強を一緒にした。「A-Z」までみんなで書きあつて、一緒に唱えた。みんな子どもたちは一生懸命覚えようとしていた。その後テレビタ



みんなで食堂大掃除

イムをして、温かいミルクを飲んで、翻訳の仕事を少ししてから就寝した。

6月6日月曜日(さくら寮)

今日の日本語クラスの授業は、みんなに日本語の名前をつけてあげ、そして「おはよう、おはようございます、こんにちは、こんばんは、さようなら、ありがとう」の6つの言葉を教えた。その後の30



頑張り屋さんのワンディー

分は、ひらがな練習をするために「あゝこ」までを教えた。小学校2年生から高校2年生までいるので、各個人レベルも違うし、やる気も違う。覚えたら私の所まで言いに来てくださいと言っても結局高学年の2人しか来ず、その他の子はみんなボーっと座っているだけだった。ひらがな練習にしても、やる気のある子はがんばって覚えていたが、その他の子は板書するのに精一杯で、覚えるのは二の次になっていたような気がする。今後の対策をもっと考えないといけないと思つた。

6月9日木曜日(さくら寮)

今日の午前中はお休みだったので、朝7時に起きて身支度をし、8時半に俊さん(ボランティアの山中俊彦さん)と合

椅子取りゲームをする子どもたち



流して町に買い物に出かけた。まずバスポートをコピーするために近くのコピーショップに行きその後はスーパーに行った。そして写真屋さんへ行き、ビザ申請用の写真を撮った。指定したサイズではないものができあがっていた。最近つくづく思うが、日本基準でタイに住んでいたらやっつけいけないということが分かった。

その後、さくら寮に戻り、洗濯等をした。夕食の後、エコホームに行く予定がなく、三輪さんを一緒に空港までお見送りに行くことにした。さくら寮を出た時点で車にはすでに10名程いたが、三輪さんの家に着くとまた6人ほど増えた。14人乗りの車に、スツーカーも加わり、

みんなでチェンラーイ空港に向かった。そしてズラズラとチェックイン・カウンタまで行き、私たちは椅子に座って待っていた。そして何分かして、三輪さん、タンヤボンさん、雄司さんと別れを告げ、13人でさくら寮へ帰ってきた。そして部屋に戻り、DVDを観て就寝した。

6月11日土曜日(エコホーム)

今日は7時に起きて、8時過ぎから子どもたちと昨日の遊びの続きをした。そして、勉強タイムの時間になったので、小学校1年生から3年生まではブンさんが、小学校4年生から上は私が見ることにした。私のグループは、宿題があるチームとないチームに分け、宿題があるチ

子はそのまま宿題をしてもらい、ない子には日本語を教えた。アルファベット表記がまだ読めない彼らに日本語を教えるのはとてもむずかしく、なんとかタイ語で書き、基本言葉を教えた。みんなの知りたい文字をタイ語で書いてもらい、私がそれを日本語に訳した。ある子にはタイ語で文章を書いて、これを英語に訳してくれと言われていたので、がんばってタイ語から英語にも訳した。昼御飯の時間になったのでお昼を食べ、その後はみんなが楽しみにしている、散歩に行っていた。その際、私がいきなり走ったので、みんなで追いかけてこになり、近くにいたゾウを怒らせてしまうことになった。そして帰ってからは、クラブ活動時間だった

が、ダンスチームが今日は休みということで、その子たちに英語のカードを使ったゲームをした。みんな吸収力が早くすぐ覚え、とても楽しんで英語を勉強することができた。その頃男の子たちは、エコホームの後ろの空き地の草を頑張つてきれいにしていたので、私も手伝うことにした。暑い中、日に照らされての作業ほどきついものはないと感じた。そして、夕方3時頃、スタッフのラッポンさんたちがお迎えに来てくれたのでさくら寮に帰った。その後、夜ご飯を食べ、いつものように過ごした。

6月12日日曜日(さくら寮)

今日は6時半に起き、身支度をした後8時前に下に降りた。そして、俊さんがやってきたので、ラッポンさん運転で、スツーカー、ストラチャイ、ソムチャイ、ジ



折り紙を楽しむ子どもたち



新入寮生のソムインとケミカー

ヤクー、ラサミー、スワイモンも一緒にラジャパッド・チェンラーイ大学まで車で向かった。最初は太陽も出ておらず曇っていたので、スワイモンと「今日はこのまま曇りがいいな。」と言っていたが、走行中はいく雨が降り、後ろの6人は雨で少し濡れてしまった。そしてチェンラーイ大学に到着した後、少し雨宿りをし、他の人たちが来るのを待った。今日は日本人主催のソフトボールの練習だ。そのため先週水曜日に、ミーティングを開き、ソフトボールのルール説明を子どもたちに行ったのだが、頑張って描いた絵と説明だけでは、簡単に理解してもらえなかった。そしてルールをなんとなくしかわかっていないまま今日を迎えたのだ。今回来ていた日本人は50代から60代の男性で7人ほどいた。彼らはチェンラーイに住んでいるようだが、タイの子どもたちと一緒にソフトボールを楽しみたいというのが目的らしい。そしてさくら寮の子どもたちも一緒にということになったのだ。しばらくすると、タイの子どもたちも11人ほどやってきた。この子たちは日本人男性の一人が近所の子を誘

い出し集めたみたいだ。

そしていざキャッチボール練習が始まった。私はスツカムとペアを組み練習した。初めてにしてはボールを高く、そして遠くまで飛ばしてくる。やはり、若者は吸収力が早い。その後、さくらチームは守備に入ることになった。私も一緒に



みんなではい、チーズ!!

参加したが、相手チームの男の子たちはほとんどヒットを打ってくる。それに負けずと、さくらチームも頑張った(まだ練習時点だが)。セカンドにいたラサミー、サードにいたスウィモンは、最初はミスばかりで球をよく後ろに逃がしていたが、だんだんと慣れるうちに上手く取れるようになっていた。そして今回一番の実力を発揮していたのがジャク・プーセンサップだ。飛んでくる球をよく見てしつ

かりとキャッチしていた。初めてにしてはなかなかの出来だ。と感心していたところ、ソムチャイ・ジャテが暇を持て余し、ついに座りだした。ストラチャイ・ドシラオはボールが飛んでこないことをいい気に、グローブを頭にかぶせている。あの光景は、いかにもタイ人らしい気がした。そしてスツカム・エウは、暑すぎる。というような顔つきをし、ボールが来るのを待っていた。その後いざチーム対抗戦になり、さくらチームが攻撃をすることになった。練習なしにしてはみんなよく打っていたが、初めてということとでバットの持ち方も、バッテリーボックスへの立ち方も知らなかった。やっといくうちに慣れてきたようだが、それでもスツカムは、次の打者が打って走って来ても、一塁でボールと立ちすくみ、アウトになってしまおうということもあった。

相手チームは9時半頃に帰ってしまい、さくらチーム対日本人で対決することになった。やはり彼らは慣れているせいかすぐに3アウトまで持って行かれてしまった。そしてみんな疲れてきたので10時過ぎに引き上げることになった。帰りの車の中では、みんな水を飲みまくっていた。かなりのどが渴いていたのだろう。そして、さくら寮に着き解散した。朝のいい運動になったし、みんなは疲れた顔はしていたものの、楽しんでたようだ。俊さんと「初めてにしては、なかなかですわね。」と言いつつ合った。

(三輪注)

さくらっ子たちがこのソフトボールクラブに参加するようになったいきさつに



25人分のご飯を炊く奈津季さん

は実はちよつとしたエピソードがある。発端は4月の初めにさくらプロジェクトに届いた一通のメールだった。

「私は、チェンライに住んでいる山崎哲男といいます。昨年私の知人である神戸のN氏から、私宛に船便にて、6個の品を送ったとの連絡がありました。1月末に5個の品は私宅に届きましたが、1個が届いておりません。郵便局に問い合わせるも、不明のままになっておりまして、3月末になって、「貴 さくらプロジェクトから礼状が届いたとのことでした。彼はおかしいな? こんなところにして送っていないのにとのことで、電話にて知りました。あて先届け先も確認されずに受け取ったものと思われます。早急に調べて頂き、私の元に届けて頂きたいと

思います」

一読して事態を察知した私は、支援物資のチェック担当の山崎さんに確認をお願いした。確かに2月初め、山崎さんの指摘されたNさんというかたから荷物が一箱届いていて、古着などが入っていたので、Nさん宛てに丁寧な礼状を書いて送ったとのこと。さくらに配達された段ボールは当然さくら宛の支援物資が入っているという思い込みから、宛名をよく確認せずに開封してしまつたらしい。血の気が引く思いだった。

さくらプロジェクト宛には毎月30箱ほど支援物資が届いており、当時は山中さん一人でチェックされていたので、なかなかの重労働であり、見落としたことを責めることはできない。しかし、誤配した郵便局にも非はあるとはいえ(これまでにも、しばしば荷物や手紙が間違つて届けられることがあつたが開封する前に気づいて郵便局に返していた、宛先を確認しないまま開封してしまつた当方のミスであることは間違いない。しかもその中身の大半はタイ人スタッフの手で内容別に仕分けが完了していて、ほかのかたがたからの支援物資と混ぜ合わされて別の段ボール箱に分散して保管されており、どの物資がNさんから送付された箱に入っていたかを山中さんやスタッフの思い出せというのは無理な話である。また一部は、村などで配布されてしまつているようだった。Nさんのほうで送られたものリストが写真付きで残っていない限り、すべてを回収することは不可能に近い。



瞑想をする子どもたち

電子メールというのは相手の表情を見ることができないが、文面から怒りのようなものが伝わってくる。

物資の内容は山崎さんが使う予定だったソフトボールのユニフォームや運動着などだという。スタッフ総出で寮内の倉庫に保管されている支援物資の箱をすべてひっくり返し、山中さんのわずかな記憶に残っていた運動着の一部が発見された。が、それは全内容量の10分の一ぐらいの量だ。残りはまったく所在不明である。探す手がかりすらない。これはもうひたすら謝るしかない。

私たちは山崎さんにメールをし、事情を話し、Nさんから送られてきたと思いき物資をできる限り回収して返却するつもりだが、100%回収できる可能性は低いので、大変申し訳ないけれども、回

収しきれなかった内容に関しては、代替品の衣類や文房具などを寄贈させていただくことで弁償に充てたい、まずはお詫びとご挨拶をかねてお宅に伺いたいとお返事した。

何度かメールをやりとりしているうちに山崎さんもこちらの事情を理解してくださったのか、メールの文面は次第におだやかになり、「いや実は以前からさくらプロジェクトのことは知っていて、一度お伺いしようかと思っていたところなので、いい機会だからこちらから出向きますよ」とおっしゃってくださった。本来ならこちらから謝罪に出向かねばならない立場だが、恐縮するばかりである。

数日後、さくら寮で山崎さんと対面した。山崎さんは定年退職後、タイで気ままに暮しながら子どもたちにスポーツを教えるのが生きがいと話され、チェンライに住む日本人を中心にソフトボールのチームを作って隔週の日曜日に、ラジャパッド・チェンライ大学のグラウンドで練習をやっているという。

山崎さんは、「一度、さくらの子どもたちにも参加させてみませんか」とおっしゃった。山中さんも乗り気で、それはぜひともお願いしますということになった。そんなわけで女子のラッサミー、スウイモンを含むさくらっ子たち数名がこのソフトボール練習会に参加するようになったのである。ひよんな経緯から生まれた新たな交流である。

6月13日 月曜日(さくら寮)

今日は朝から筋肉痛に悩まされていた。

昨日ソフトボールを張り切りすぎたのかと少し反省していた。そして「筋肉痛」という言葉をタイ語で何とのかをタイ人スタッフに話していたところ、お昼前にペンさんから、マッサージに行きたいのか?と尋ねられた。私は20代になって半生しか経たないのに、警戒にマッサージなんてと思われるのを想定し、「いや大丈夫です」と答えた。でもペンさんは私の本当の気持ちを読み取ったのか、昼ご飯が済んだら一緒に行こうと誘ってくれた。ご飯が済み、バイクでマッサージ屋さんまで行った。その店には一度行ったことがある。今回は筋肉痛だったせいとか2時間ずつと我慢続けた。ベテラン40代後半のおばさんにマッサージしてもらったが、私には痛すぎた。そしてその帰り、少し良いことが起きた。ペンさんと2人で「いや、痛かったですね。」と



就寝前の歯磨きタイム!!!

話しながらバイクのエンジンをかけようとしたところ、なかなかエンジンがかからない。せつかく足のマッサージも受けたのに、ペンさんは必死に30回くらいエンジンだけを蹴っている。私も見ているだけではダメだと思い、頑張っで蹴ってみた。20回、30回蹴っても音もしない。そして、足マッサージの意味がなくなってしまうほど二人は疲れきってしまった。その光景をいつから見られていたのかわからないが、清楚な格好をした40代の紳士が、「お手伝いしましょうか?」と私たちに声をかけてきたのだ。そして、一瞬にしてエンジンをかけてしまったのだ。私たちは彼に感謝し、スーッと去っていった。あの時の彼の後姿は町中の誰よりも輝いていた気がした。その後、洗剤を買いにスーパーに寄った。案の定その帰りのエンジンもなかなかからなかった。先ほどの場所からかなり距離もあるため、さきほどの紳士はもちろん現れなかったが、一人でまた50回程エンジンを蹴ってやっとかかった。帰ってきた頃には疲れ果て、マッサージを2時間受けた意味はなくなり、その夜にはふくらはぎの筋肉が痛くなっていた。

今日は14人中9人の子どもたちが日本語の授業を受けに来た。始めは先週に習った言葉の復習をし、みんなで「あゝこ」まで発音練習をした。今日は、いただきます、ごちそうさま、バイバイ、おやすみなさい、ごめんなさいを教えた。その後は「さくら」までを教え、一人ずつ発音してもらった。私が発音した後をつけてくる形にして発音練習させたところ

ろ、みんな楽しみながら勉強していた。文字自体はまだ覚えていなくても発音さえできれば今は十分だろう。

6月20日 月曜日 (さくら寮)

みんな5分前、10分前から教室に来ている。勉強したいという思いが感じられる。今日は先週、先々週の復習をした。やはりやる気があるのは中学3年生と高校1年生の二人だ。ひらがなを教えている間もつもらないせいも、マンガを読んでいる子もいた。カードを使ったゲームをしても、興味がない子は座ったままだ。これはやはり仕方ないのだろう。高学年になってくると、必死で覚えようとするが、低学年のうちはやはり楽しみながら勉強したいという気持ちがあるかも知れない。勉強方法を考えなければならぬ。

6月27日 月曜日 (ゆめり寮)

今日は、今までの復習をした。そして、折り紙でゾウを作った。みんな上手く作っていた。今日気付いたことは、小学生以下はやはり日本の文化や遊びを覚えたいのだと思ったが、逆に中学生以上になると言葉をメインに勉強したいということがわかった。やはりクラス分けをした方がいいのだろうか。

7月1日 金曜日 (エコホーム)

今日は2時半ごろにエコホームに行った。子どもたちが帰ってくるまでビデオを見て待った。みんな帰ってきたら嬉しそうに、「こんにちは。」と挨拶してくれる。なんて眩しい笑顔なんだ、いつも

感激する。そして、みんなと遊び、ご飯の支度をした。食事の後は何人か連れて散歩した。みんな夕食後のお菓子を買いに行くのをすごく楽しみにしている。散歩途中、ラチャン、ジャセン、キティボンがまた石投げをして遊んでいた。一緒

について行ってみると、ジャセンは木に登りだした。危ないから降りてと言っても、笑顔だけを返しどんだん上にながっていく。そして、鳥籠を取って降りてきたのだ。何に使うのかよくわからないが、ジャセンはすごく満足した顔をし、一緒にエコホームに戻った。夜はビデオタイムがあり、幽霊のビデオを観た。いかにもタイらしいビデオだ。オチが見えすぎて私にはあまり面白くなかったが、子どもたちは楽しんでた。ビデオを見終えた後時間があつたのでテレビを見ていた



チュティマーとスタワン、タイ語お勉強中

ところ、スチャダーとジャセンがリモコンの取り合いをし、喧嘩を始めた。最初

は様子を見ていたが、ジャセンが手を出したので止めることにした。ジャセンは怒って部屋に帰ってしまった。みんなは「よくあることだよ。」と言っていた。ビデオを見終え10時半ごろ就寝した。

7月2日 土曜日 (エコホーム)

今日は、朝起きて残っていた仕事をしただ。そして昼ご飯を作って食べた。その後は図書館の本の整理をした。子どもたちは本を読み終えた後、横に倒して戻す。そして前まできれいに並べてあつた本はすべて寝込んでいた。本たちもみんな元気がなかったたので、大きさを順に並べることとした。一人でこつこつ作業をしていると、カンヤールとサウワニーが手伝いに来てきてくれた。3人で協力してやる。すぐに終わった。その後は図書館の掃き掃除をした。そして子どもたちと外で遊んだ。夕食後はまた遊びの続きをして、8時からテレビタイムだ。男の子と女の子がテレビのチャンネルで喧嘩をしていた。みんな見たい番組がそれぞれ違うので、誰か是我慢しいといけない。そして時間を区切って平等にした。チャンネル争いは何処にでもあるのかと感じた。

7月3日 日曜日 (エコホーム)

朝起きて、仕事の続きをした。10時ごろさくら寮からスツカムとジャクーがやってきた。そしてプンさんは選挙のため出かけてしまった。掃除、洗い物などを済ませ、子どもの面倒を見ることにしたが、大変だと実感した。一グループと遊

んでいては他のグループはそっちのけになつてしまう。小学4年生以上にもなれば言うことを聞くが、まだまだ小さい子はなかなかだ。すぐ喧嘩してしまう。それでもなんとか調和を保つてもらうためにいろいろと努力してみたが、やはりタイ語もまだ今一わかない子どもたちと、あやふやなタイ語を話す私では意思疎通は難しかった。夕方3時頃プンさんが戻ってきたので一安心した。そして改めてプンさんの一人ですべてやりこなす能力を実感した。すごい。夕食の後学校まで散歩に出かけた。そして初のエコホームミーティングに参加した。みんな歌を唄ったり、ダンス披露したり、すごく楽しかった。その後は就寝した。

7月7日 木曜日 (エコホーム)

今日は昼2時ごろにエコホームに行った。子どもたちが帰って来てから少し遊び、夜ご飯の準備をした。かぼちやを切っていたら、包丁が左薬指に刺さり少し血が出た。プンさんはそれにいち早く気づき、子どもにも薬草を持ってくるように頼んでくれた。草のエキスを切り傷にたらし、バンドエイドを貼ってくれた。そしてその後は子どもたちが手伝いに来てくれ、みんな心配してくれた。夕食後は、子どもたちと遊んだ。プンさんはサッカーをして遊んでいた。みんな足の動きが早い。そしてシャワーした後はみんなが宿題タイムだ。小1のケミカーはまだタイ文字がうまく書けないので一緒に書き練習をした。そして、小2のカンヤール

は算数を教えた。足し算はできるが引き算になるといつも逃げ出そうとするカンヤーに頑張つて教えた。小6のラチャンと一緒に教えたら、だんだん解つてきたみたいで、答えが出ると嬉しそうな顔をした。そしてブンさんと少し話をし、就



洗濯をする子どもたち

寝した。

7月8日金曜日(エコホーム)

今日はブンさんとエコホームにずっといた。その為、二人でゆっくりとした時間を過ごした。子どもたちが帰ってきた後は、夕食の準備をした。昨日出来た切

り傷はもうほとんど完治していた。薬草の力はすごい。そして夕食後、子どもたちが洗いをする際に水が止まった。これはエコホームでは日常茶飯事に起こることだ。ブンさんと男子寮生がエコホームの外の水道管を見に行った。ジャヤヘ、

ジャセンは木の間をぬつて給水管がある土手の下にすいすいと降りて行き、何やら作業をしていた。そして10分後水が上がってきた。ここの男の子たちはなんでも知っている。修理も出来るし、木登りも得意だ。修理屋さんに頼まなくてもすぐ治してくれる。まだ若いのに素晴らしい。

スタツプが使っているトイレの水が出ないということだ。人生初の野外シャワー(水浴び)をブンさんとした。雨水を貯めておいたタンクの蛇口をひねると水がいつぱい出てくる。日本で水が出る幸せなど一度も感じたことがなく、ただ当たり前だと思っていた光景が、こちらに来てつくづく水がある環境や有り難さ、水の大切さを感じさせられる。

ブンさんが持つてきてくれた布生地を身に纏い、いざ野外シャワー。7時前でちょうど夕日が沈むころだったせいか、景色がとてもきれいだった。私たちがシャワーを浴びていると子どもたちはみんな駆け寄ってきた。野外風呂?は温泉とは異なるが本当に楽しかった。一度は体に

巻きつけていた布が落ちそうになり、ブンさんと二人で笑いあった。温泉は恥ずかしくないのに、その際はとても恥ずかしくなかった。水浴びの後はテレビタイムがあったのでみんなでテレビを観た。子どもたちが私の髪の毛を編込みしてくれたが、セーラームーンに登場しそうな髪型になってしまった。

7月9日土曜日(エコホーム)

今日は7時頃に起き、子どもたちと遊んだ。パソコンを持って行っていたので音楽ビデオを見せてあげた。私のパソコンに入っているタイのPVが4つしかないせいか、みんな何度同じPVを見ても飽きないらしい。同じPVを一つ当たり3回以上見た。そしてその後はみんな家で昼ご飯の準備をした。ブンさんと私はあまりにもお腹がすいたので11時頃先にご飯をいただいた。その際は焼き飯だった



紙で作った自作の仮面をかぶるカンヤー

たが、ブンさんは私が2週間前に持つて行ったインスタント神戸カレーと一緒に食べていた。カレーは白ご飯じゃないと許せない(欲を言う)、日本米がいい)タイの私からすれば、あり得ない光景だったが、なんでも有り得るこの国では、普通のことだろう。おいしそうに食べていた。そしてラツボンさんのお迎えで大雨の中さくら寮に戻ってきた。その後何が原因か不明ではあるが、激しい腹痛に襲われた。

7月10日日曜日(さくら寮)

今日はソフトボール二回目の練習。朝8時にさくら寮を出発:の予定だったが、みんな一カ月ぶりということですっかり忘れていたみたいだ。ということでも出発は8時15分になった。ラツボンさんにチェンラーイ・ラチャパット大学の練習場まで連れて行っていただいた。天気は曇りで暑くも無く寒くも無くちょうどよかった。着いた頃にはすでに20人ほど集まっていた。早速ウォーミングアップをし、いざキャッチボール練習をした。今回もまたスツカムとペアを組んだが、一か月ぶりということもあり体が随分と鈍っていた。スツカムが投げたボールを普通はとれたものの、うっかりしていて気付いた時にはすでにおでこに当たっていた。すごく痛かった。その後はバッティング練習をしたが、みんなほとんどボールを打つ。やはり若者は違う。途中からまた人が増え今日は30人ほどいた。アメリカ人も3人来て国際的なソフトボール練習になった。練習中それぞれ分かれて練習



食事の時間。整列するこどもたち

していたが、ラッサミー、スワイモンは前回よりもよく打つようになりコツをつかんでいた。ジャッキーに守備を任せたらすごい。どんなボールでもしっかり見えて、キャッチしていた。彼は野球の才能があるのだろう。ストラチャイは足をくじいていたらしく、バッテリーはせず、ずっと守備にいた。前回のような暇そうな態度は見せず頑張っていた。ソムチャイとスツカムは知らない間にサッカーボールを見つつけ、サッカーゴールがあるのをいいことにサッカーをやりだした。ただサッカーは二人ともうまい。そしてその10分後にはベンチで休憩する2人。練習試合の時間だから呼びに行くと、サッカーで足を痛めたらしい。それには私も

嘩然だったがなんとか参加することに。走るといふのにTシャツ、ジーパン、サンダルで来ているスツカムには言葉が失った。参加することに意義があるということ、まあいいか。そしていざチーム分けをして練習試合開始。今日は前回よりも大盛り上がりでとてもいい試合だったと思う。11時頃に終え、ラッポンさんが迎えに来るのを待った。今日は私も車の後ろに乗って帰ることにした。日本ではありえない光景だが、タイの道路だと普通により得る光景だ。そして車内にいるよりも気持ちがいい、いや涼しい。そして時間が経ちすぎると風との戦いになるのだ。急カーブの時は、自分をコントロールしなければいけない。気がつくとも風と勢いに負けてこけてしまうのだ。そしてさくら寮に着いた頃には、ソフト練習の時よりも数倍疲れた。もう当分挑戦しないと決めた。そしてジャッキーの足を見ると片方の足が裸足だった。ん？どこでなくしたのかと聞くと彼もわからないらしい。グラウンドに片方置いてきたのか、帰りに飛ばされたのか不明だが、タイの道路ではよくサンダルの片方だけ落ちていたのを見る。日本だと少し奇妙に感じ、背中がぞーっとするが、こちらでは日常茶飯事だ。

7月24日 日曜日 (さくら寮)

今日は本当ならソフトボール練習に行くつもりだったが、あいにく雨で行かないことになった。そして10時40分ごろ、ソフトボール練習にいつも来てくれる日本人のおじちゃんたちがうどんを持って

さくら寮にやってきたのだ。2週間前に頂いた名刺に食いつき、うどんが大好きな私は電話で予約したのだ。メーサイでうどん屋さんを経営しているKさんが10人ほど持ってきてくれたので、お湯を大きい鍋にたっぷり沸かし手打ちうどんを20分程茹でた。泡が出ては水を足すという作業には驚いた。私の場合はいつも泡が出てくると火を弱めるということしかやったことがなかったからだ。20分程で麺が茹で上がり、ソフトボールに参加している子どもたち、三輪さん、山崎さん、山中さんの奥さん、スタッフのみなさんでいただいた。私がイメージしていたアツアツのうどんとは異なり、冷麺スタイルのうどんだった。久しぶりに口にしたうどんはすごくおいしく、そして日本を思い出すような味でもあった。あ



食事タイム

のうどんを吸う「ツルツルツ」という音はいかにも日本人がうどんを啜る音で、また日本のうどんが恋しくなった。そしてうどん出張を無事に終えたKさんは帰っていったのだ。今回はKさんのご好意でタダで頂いたのだった。いや、それにしてはコシがあつておいしかった。

7月25日 月曜日 (さくら寮)

ここ一カ月よくサンダルがなくなる。確かここで脱いだはずなのに部屋に置いて誰かが履いて、次に見た時は元の位置にないのだ。始めは、忘れっぽい性格だなと思ひ、予備にもう一つサンダルを出したのだ。最初の頃は、私がない間に誰かが勝手に履いてまた元の位置に戻してくれていた。これだと私自身気付かない。そして何もなかったようにまた自分のサンダルを履く。だが最近では違う。サンダルは黒とオレンジで、黒の方には自分でわかるように修正液で絵まで描いた。オレンジのサンダルには何もしなかった。一瞬、「使用後は元の位置に御戻しください」とでも書こうかと思つたが、サンダル自体に特徴があるので、大丈夫かと油断していたのだ。2日前ついに二足ともが消えてしまった。そして仕方なく裸足で事務所まで移動することにした。時々私が裸足だと、それを発見した子どもたちは不思議そうに、「なんで、サンダルを履いてないの」と聞く。私はいつも「どこに行ったのかすらわからない」と自己管理ができないスタッフのような回答をする。だが本当に何処に行ったのかもわからないので答えようがない。ただ

さくら寮の1年間

さくら寮の1年は、5月中旬にスタートする新学期から始まります。3月から5月にかけての1年でもっとも暑い季節にあたる暑期の、2か月以上におよぶ長い夏休みを終えて、子どもたちは村から寮に戻ってきます。今回は毎年恒例の行事を中心に、寮内外で行われる1年間の主な行事を紹介します。(写真はこの1年間以外のものも使用しています)



新学期

5月の声を聞くと、スタッフは新学期の準備に忙しくなります。新入生の新しい学校への入学手続き、寮内の諸設備の修理や修繕、新入生のための寝具、調理器具や扇風機などの備品、生活用品などの購入。寮内に掲示してある寮生の名簿や写真を新しくし、寮生の部屋割や当番グループを決め、寮内活動の時間割を作ります。

5月中旬、子どもたちが村から帰ってきます。まずは寮内の清掃。タイル磨き、



新学期、さくらホールで衣類を配布する

窓ふき、天井の蜘蛛の巣とり、庭の草刈り、2か月以上の間使われていなかった寄宿舎の内外を掃除します。

私たちスタッフにとっても、新学期の前に寮生たちが村から戻ってくるのを待つときは楽しみと不安が入り混じった気分です。なぜなら、毎年、2か月の長い休みの間には寮生たちの身やその家族にもさまざまな事件やハプニング、予想外の人生の展開があるからです。休み

さくら寮の1年間

三輪隆

中に彼氏や彼女ができて、そのまま結婚してしまっていたとか、他県に働きに出てしまえばそのまま寮に戻ってこないということも多々あります。なぜあの子が？と驚くような顛末もしばしば。ですから、寮に戻ってきて元気な顔を見せるまでは、不安と心配の毎日なのです。



保護者同伴で新入寮生のオリエンテーション

今年も予想外のことがおこりました。在寮5年目を迎える小学5年のリス族の女の子は、村から寮に戻ってきた数日間、泣いてばかりいました。寮の近くの公衆電話から毎日両親に泣きながら電話をかけていました。単なるホームシックだと思っていました。心配した両親が迎えにきて、「悪霊がとりついてるかもしれ



年度初めの大掃除



↓↑新入寮生歓迎会のひとこま



ないので、村で悪霊払いの儀礼をやらなければならぬ」といって連れ帰ってしまい、そのままさくら寮にも戻らず学校を転校してしまいました。これまで4年間もさくら寮においてそのようなことはなく、普通に友達と遊んだりしていたのに、彼女の心にとつた何があつたのか詳しいことはわからないままでした。

学校では始業式、オリエンテーションに続き、新しい制服の配布や教科書の配布があります。寮では子どもたちはそれぞれの里親に手紙を書き、それを日本やタイに住む翻訳ボランティアのみなさん

が手分けして翻訳してくださいます。スタッフは、里親の方に送る寮生一人ひとりの写真を撮影します。



新入生歓迎会

毎年5月末または6月初めに実施される恒例の新入寮生歓迎会。タイの大学などで広く行われているかなり手荒い通過儀礼的なゲームのさくら寮版です。先輩寮生による後輩いびりのようにも見えま

すが、底意地の悪いいじめやしごきとは無縁の、愛情たっぷりの友好ムードたっぷりのもてなしですから、みなとても楽しそうです。新入寮生たちはまず、先輩によって顔中にパウダーを塗られ、奇抜な化粧をさせられます。そして数人が一グループになってスタートラインにつき、指示にしたがって数十メートルごとに置かれた関所を一か所ずつ通過していきます。各関所では在寮生たちが手ぐすね引いて待ち受けていて、新入生はその命令に従って「焼き鳥が死んだ」などの変な踊りを踊らされたり、トウガラシやタバスコの入った怪しげな飲み物を飲ませられたり、得体のしれない生き物の入った壺に手を突っ込まされたり、お化け屋敷に連れられたり、灌木と泥の中を軍隊のようにほふく前進させられたりと、さまざまな体験をさせられます。この通過儀礼を終えることにより、新入生と在寮生との壁はなくなり、打ち解け、親しさが増すといえます。

ランチバイキング

ここ何年か、さくらっ子たちは6月の到来を待ち遠しく思うようになっていきます。7年前から「ビュッフェのお父さん、お母さん」こと水越速雄さん、露子さんご夫妻が毎年この時期に来寮され、さく



水越ご夫妻（手前）と一緒にホテルでランチバイキング

ら寮とさくらエコホームの子どもたち全員をホテルのランチバイキングに招待してくださいようになったのです。子どもたちが1年でもっとも満腹になる日です。（今年から11月の実施に変更になりました）



ジョイさんの命日とカオパンサー（入安居）



ジョイさんのお墓参りは命日と「母の日」には欠かさず行われる。

タイの仏教行事である入安居。この日から3カ月、僧侶たちが雨期の間、寺にこもって修業するのを祝う儀礼です。寺では村人たちが出家する僧を祝う儀礼がおこなわれ、街中では巨大な蠟燭を立てた山車に美女が乗り、盛大なパレードが行われます。俗にろうそく祭りともいわれるゆえんです。アーサーンハブーチャー（三法節）の翌日にあたり、学校も数日間連休となるので、寮生たちは新学期後初めて村に帰ることを許されます。仏教徒の寮生は少ないですが、村に戻る

日ということ、このお祭りの到来をとても楽しみにしています。



寮内運動会

8月12日は王妃の誕生日で、母の日として親しまれ、国民の祝日になっていきます。土日とつながって連休になることが多いので、さくら寮ではこの日に寮内スポーツ大会を開催する伝統がここ10年ほど続いています。本来はタイでは雨の



水田ようになったグラウンドでの寮内スポーツ大会

少なく涼しい乾期がスポーツのシーズンと言われていますが、さくら子たちは敢えてこの雨期に運動会をやりたくてしかたがないようです。雨上がりのぬかるんだグラウンドで泥まみれになりながらサッカーをやったり、水たまりの中でたすきりレーや風船りレーなどのゲームをするのもなかなか楽しいようです。

勘里一座公演

8月には日本の夏休みということもあって、多くの支援者や学生さん、旅行者のかたがさくら寮を訪ねてこられます。大阪の勘里貞子さんは、10年前から毎年8月の後半にさくら寮を訪問されてい

ます。職場の仲間やお友達などを誘って即席の劇団を作り、さくらの子どもたちにお芝居を見せてくださっています。これまで「浦島太郎」「桃太郎」「猿蟹合戦」「花咲かじいさん」など日本のお伽話を中心に演じていただきました。子どもたちと一緒に演じての大道具作り、リハールは、寮生たちの創造力を高める上でもとても意味あることだと思います。上演会のあとの交流会ではさくらの子どもたちもお返しにさまざまな芸を演じます。今ではこのイベントがないとさくら子たちも8月を実感できないほどの恒例行事になりました。



勘里さんによるマジックショー



勘里一座による『ねずみの嫁入り』のシーン



期期末試験・学期休み

タイの学校の多くは、前期後期の二期制をとっています。(大学だけは数年前から3期制になりました)

小中学校、高校、専門学校などでは9月の下旬から10月上旬にかけて前期の期末試験が行われ、それが終わると3週間から1カ月間の中間休みに入ります。ちょうど山ではトウモロコシの収穫や稲刈りの時期を迎えますので、子どもたちにとっては村に帰って畑仕事の手伝いをするいい機会です。ラフ族やアカ族、モ



9月は洪水の季節。チェンラーイ市内もこんな状態に



保護者を交えての三者面談による進路相談



1時間ほど激しい雨が降ると寮の前も水浸しに



保護者会と進路相談

10月ぐらになると、翌春卒業予定の

加を続けています。寮生手作りの刺繍ポーチや山岳民族の民芸品などを販売しています。



保護者会ではさくらっ子たちの芸能も披露する

ン族などその年に収穫した新米を食べるお祭りもあります。
一方、日本では日比谷公園で国際協力の祭典「グローバルフェスタ」が開催され、さくらプロジェクトもここ8年間参

寮生たちは今後の進路を考え始めなければなりません。進学する場合は将来の希望の職業を踏まえて、どんな学校のどんな学科に進むのがよいか。また就職する場合はどんな会社に応募したらよいか。家庭の経済的な問題や保護者の事情などもあって、決して本人の意思だけで決められるわけではありません。保護者の意向も確認するために、卒業予定者を対象とした保護者会個人面談が11月半ばごろに開かれます。全体に対しての就職、進学にあたってのオリエンティングに加え、保護者とスタッフと本人を交えての三者面談となります。

ロークラトン

タイの伝統的な風物詩のひとつであるロークラトン(灯籠流し)は、11月の満月の日に行われるなかなかロマンティックなお祭りです。スコートイ王朝のプラアン王の妻であるナン・ノッパマートが、王に献上するため蓮の形や様々な形をした灯籠を作り出したのが起源とも



クラトンをもつワサナー



三輪にも父の日を祝ってくれる寮生たち



ローイクラトンの夜のパレード

いわれ、タイ族の民間信仰である水の女神コンカーに祈りをささげる祭りともいわれています。バナナの茎を台座にマリゴーロドなど色とりどりの花やバナナの葉など、飾り、蝋燭、香を立、タクトを川に

流します。この時クラトンのろうそくの火がいつまでも消えなければ、願い事がかなうと信じられています。また紙で作った熱気球「コムロイ」も空に打ち上げます。さくら寮の近くを流れるチェンラーイのメーコック川のほとりでも、夜の水辺で蝋燭をともしたクラトンを流す人でにぎわい、点々とクラトンの灯火が川面を映しだすその光景はとても幻想的でロマンティックです。近くのイベント会場では出店が立ち並び、照明もあでやかに、巨大なクラトンに見立てて優雅な装飾を施した山車に伝統的タイ族の民族衣装に身を包んだ美女たちが乗り込んでの



暁寮との友好スポーツ大会（綱引き）



暁寮との友好スポーツ大会（二人三脚）



国王誕生日と

友好スポーツ大会

12月5日はプミポン国王の誕生日。タイ

パレードも見ごたえがあります。さくら寮の子どもたちもそれぞれの個性を生かして手作りのクラトンを作り、みなで歩いてメーコック川に流しに行きます。寮内ではクラトン・コンテストも開かれます。



寮内クリスマス会の準備は数日前から行われる

の「父の日」にも制定されています。さくら寮では毎年、三輪が寮生たちの父親、そして里親代表として（？）、子どもたちから父の日を祝ってもらいます。照れくさくも、うれしいものです。またこの頃はウインパオにある暁寮（さくら寮設立以前から日本人の中野穂積さんが運営されている山岳民族の生徒寮です）との友好スポーツ大会が開催されます。こちらもすでに20年も続いており、毎年ホストを交代しあつて、サッカーやバレーボール、セパタクローなどに熱戦が繰り広げられます。

寮内クリスマス会

さくら寮の1年で最大のイベントはなんとといってもクリスマス会。子どもたちも楽しみにしており、1か月も前からグループに分かれてクリスマスのお出し物を考え、その出し物を競い合います。また民族ごとの出し物、個人またはグループでエンタリーできるカラオケ選手権、プレゼント抽選会など楽しいイベントなども目白押しで、12月下旬の土曜日の午後から深夜まで、長く熱気に満ちたショータイムが繰り広げられます。この夜は食



昨年のクリスマス会、スタッフの出し物はエア・ギター

事も豪華で、クリスマスケーキにアイスクリー
ム、果物、お菓子な
どのデザート
もつき
ます。
ぬいぐるみ
のプレゼント



女性スタッフもクリスマス会でははじけまくる



山岳民族の衣装もニューウェーブにアレンジしてしまう



ともたく
さんもら
って、子
どもたち
はみな幸
せそうで
す。
クリスマス会が
終わった頃、さく

子どもの日・教師の日



ら寮の子どもたちが通うサハサートスク
サー・スクールでも約2週間のクリスマス
ス休みに入り、年明けまで子どもたちも
村に帰っていきます。サハサート以外の
公立小中学校や公立高校、大学はクリ
スマス休みはなく、12月30日まで授業が
あります。

タイの子どもの日は1月の第2土曜日
です。タイの各地では小学校のグラウンド
や、軍の施設、お役所の広場などが開放
され、ステージが設置され、踊りのコン
テストやのど自慢大会、プレゼントの配
布など、子どもたちが大喜びするイベン
トが開かれます。さくら寮の子どもたち
もスタッフからお小遣いやおやつをもら

ってそうしたイベント会場に遊びに出か
けたり、寮内でも上級生たちが中心にな
って子どもたちとゲームを楽しんだりし
ます。そしてそのお返しというわけでは
ないのでしたが、「子どもの日」が終わ
ってまもなくやってくる1月16日は「教
師の日」と決められています。



旧暦の正月

ラフ族、リス族、ヤオ族の人たちは乾
期たけなわの1月下旬から2月中旬にか



ラフ・ニ族の村の新年祭



卒業生を送る会

けて、旧暦の正月を祝います。ラフ族では約10日間も祭りが続き、豚をつぶし、酒を飲み、每晚広場で輪になって踊ります。寮の子どもたちも数日間学校を休んで村に帰り、村のお祭りに参加します。

卒業生を送る会

旧正月が終わると早くも終業シーズンがやってきます。専門学校や市内の高校では2月の下旬に期末試験が終わり、卒業式が行われます。サハサートスクサー・スクールは3月上旬が卒業式です。タイの卒業式はたいそう華やかに行われ、



後輩たちに花束をもらい、号泣するメー・センヌワン

さくら寮でも2月の下旬に卒業生を送る会が開催されます。卒業する寮生たちがひとりひとりスポットライトを浴びてステージに立ち、寮生活の思い出やスタッフ、後輩たちへの感謝の言葉、さくら寮への思いなどを述べます。

中学や高校を卒業する寮生にも、寮に残って上の学校に進学する生徒、さくら寮を出て別の施設に移ったり、自活しながら進学する生徒、村に帰る生徒、就職する生徒など進路はさまざまです。



期末試験 夏休み

3月初旬には学年末試験が行われます。



タイの通信簿は5段階評価ですが、日本と違うのは4が最高で、以下3、2、1と続き、さらにその下に0という評価があることです。0は落第点で、再試験などを受けてパスしないと進級できません。小学6年生、中学3年生では、教育省が定めた基準をクリアする学力があるかどうかを審査する共通試験の制度がありますので、0をもらってしまった子は補講や追



サハサートスクサー・スクール卒業式後の記念写真撮影会。

試、課題をこなすことによって、なんとか卒業にこぎつけます。後期の試験が終わるといよいよ夏休みです。みな荷物をまとめ、大きなかばんを抱えて嬉しそうに村に帰っていきます。

夏休みの過ごし方は、村の家で両親の仕事を手伝う子、チェンライの町でアルバイトをする子、バンコクに出て仕事を探す子、さまざまです。

新入寮生選考活動

寮生たちが村に帰っていったあと、寮はとても静かになりますが、スタッフの仕事はまだ続きます。

5月に始まる次年度新規入寮生の選考の仕事が待っているのです。毎年、200人を超える新規入寮生の応募があります。これを2月末までに書類選考し、支援が必要と思われる子ども約40名〜50名までしぼり、3月の中旬に選抜選考会がさくら寮で行われます。

書類審査に通った応募生たちは一泊2日の選考会で、それぞれの終了学年での学力を見極めるための筆記試験や、面接、そして合宿によって性格や寮への適応力など審査します。学力は参考程度ですが、もっとも重要な審査基準は、その子どもの家庭が経済的な観点で支援を必要としているか、そして子ども本人に勉強意欲があるかどうかということです。

試験が終わると約1週間かけて複数のスタッフが村まで出向いて受験生の家族を一軒一軒訪問し、それぞれの家庭の経済状況や入寮への意志を調査します。これらの調査結果を総合的に踏まえてスタッフ内で厳正な選考会議が何度も開かれ、3月末、新入寮生の合格発表があります。このところ受け入れている新入寮生は毎年、15名〜20名前後です。



ソンクラーン

4月13日はタイ歴の新年にあたり、「ソンクラーン」(水かけ祭り)と呼ばれる



入寮生選考試験の受験者の登録受付

るお正月の祭りが各地で盛大に行われます。村人は寺にお参りに行き、道行く人に水を掛け合って新年の到来を祝います。山岳民族には本来水かけ祭りの習慣はないのですが、学校が休みになっているので、最寄りのタイ族の村や町へ遊びに行き、この祭りを一緒に楽しむ人も

が増えてきました。4月のタイは1年で最も暑い季節ですが、ソンクラーンの祭りが終わった頃から、激しい夕立などが始まり、やがてくる雨期の訪れを予感させます。



入寮生選考試験のひとつ。ただし学力は参考程度

支援物資の配布

さくらプロジェクト寮のスタッフは、子どもたちの食事の世話や生活の世話で、学期中は、週一度の休み以外はほとんど有給休暇をとれないため、この休みにまとめて休暇をとる人が多く、交代でさくら寮の事務所の留守番をします。この

時期のスタッフの仕事には、年度末の活動報告や収支計算のまとめ、寮内の設備、備品チェックなどの他に、日本から送られてきた古着や支援物資をトラックに積み、村に配りに行くという作業があります。毎年段ボールにして300個以上送られてくる衣類や生活用品などの物資は仕分けされ、寮内で配布する分をのぞいて、約30から40の村に公平に配布されます。

またこの頃、三輪は子どもたちがいなくなった寂しさに耐えて(?)さくら通信の執筆・編集に明けくねながら、新学期の到来を首を長くして待ちます。



山の村での古着配布風景。公平に配ることがポイント

《連載復活》

ミャンマー民族の知識

さくら寮の子どもたちの民族紹介

三輪隆

6年ほど前のこと、(あまりに昔のこと忘れてしまったかたも、当時まださくらの支援をされていなかったもいらっしやるかと思えます) さくら通信の30号からこのタイトルで連載を開始したのですが、紙面の都合などにより早くも31号で中断したままになっていました。遅まきながら今号よりその連載の復活です。さくら寮で生活している子どもたちは7つの民族の出身です。今回はカレン族、ヤオ族の文化とそれぞれの民族の結婚について紹介します。

カレン族

カレン族の基礎知識

チェンラーイ市の街中を流れるメーコック川(メコン川の支流の1つである)を、モーターボートで1時間ほど上流に上っていくと、ルアミット村という大きなカレン族の村に着く。ここはチェンラーイで最も有名な観光地のひとつといっても過言ではないほど、連日多くの欧米人観光客が訪れる。最近では道路も整備されたので、巨大観光バスも乗り入れる

ようになった。お目当てはゾウ乗りツアーである。村の中に60頭ほどのゾウが飼われ、観光客を乗せて村の中を闊歩したり、他の村までゾウ乗りトレッキングに連れて行ってくれる。

カレン族は象使いの名手だ。かつては野生のゾウを捕獲、調教し、木材の運搬などに使役していたというが、現在はチェンラーイ近辺にはもう野生のゾウは生息しておらず、スリンなど東北部からゾ



さくら寮のケオカンはスゴー・カレン

ウを買ってくることもあるという。タイのカレン族は、タイの山地民族の中で最大の人口を誇り(約120万人いるといわれるタイの山岳民族の50%近くを占める)、居住地はタイ北部、中部

の15の県に広くまたがっているが、特に人口が集中しているのが、チェンマイ県、メーホンソン県、ターク県、カンチャナブリ県などのミャンマーとの国境地帯である。メーホンソン県では、カレン族の国会議員も誕生するほどの一大勢力を占めている。

さくら寮があるナムラット村もほとんどはカレン族の小さな集落で、今も多くのカレンの人たちが住んでいる。

ラフ族、リス族、アカ族などが、主に中国南部からの移住者なのに対して、カレン族は現在のミャンマー東部が起源と考えられ、タイには18世紀から移住が始まったといわれている。現在もミャンマーにはカヤ州を中

心に300万人以上のカレン族が住んでおり、民族の独立をかけて半世紀にわたって、ミャンマー政府と独立闘争を行ってきた歴史がある。

自称は「バガニョー」で、「人」を意味する。タイ人からは、「カリヤン」「ヤン」



スゴー・カレンのバンブー・ダンス

などとも呼ばれる。チベット・ビルマ語派のカレン語を日常語としており、カレン語の表記はビルマ文字から借用されたものを使っている。

カレン族は「スゴー・カレン」「ポー・カレン」という2つの大きな支族に別れ、それぞれ言語、習慣、民族衣装などが異なる。ポー・カレンは山地に住む傾向が強く、今でも伝統的なアニミズム宗教を保持している割合も高い。一方で、近年、



カレン族は象使いの名手

キリスト教や仏教に改宗しているカレン族も多い。主な産業は農業で、休耕期のローテーションを守った定着型の焼畑農耕のほか、低地に住むカレン族では、水



メーホンソン県のポー・カレン族

田耕作も行っている。ポー・カレン族の民族衣装にほどこされる織りのパターンや刺繍、そしてその上に縫いつけられるアクセサリーの数々は、スゴー・カレンよりもはるかに重厚かつ派手で、腕には数多くの銀や銅、錫、真鍮、アルミなどでできた手製のブレスレット



チェンマイ県のスゴー・カレンの少女たち

をつける。男性も祭りなどのときにはおしやれに着飾り、顔に派手な化粧をする。スゴー・カレンの衣装はそれに比べる とかなりシンプルで、胸や腰、袖や裾の



スゴー・カレンの既婚女性の衣装

部分に赤い糸を織り込む程度である。織りの技術には定評がある。

男性の衣装は、スゴー・カレン、ポー・カレンともに赤い糸で織った木綿の布を使った巻頭衣風の上着と黒または紺の筒型ズボン。老人にはターバンを巻く人もいる。男性は、山岳民族には珍しく、髭を蓄えた人も多い。

カレン族の愛と結婚

カレン族の若者たちの恋人探しのチャンスは、結婚式、葬式、村祭り、それに焼畑の種まき、稲刈りのときなど、村人たちが一堂に会するときである。とりわけ葬式の通夜のときなどはまるで大學生の合コンのように新たな出会いを生み出す絶好の場として公認されている。よその村からも参列者があるし、衆人環視のもとだから逆に保護者たちに



スゴー・カレン族の結婚式。新郎はさくら寮生のお兄さん

とっても安心なのかもしれない。夜を徹してかなりドライに、にぎやかに行われる葬儀の場で、若い独身男たちは、好みの娘にそれとなく接近してアタックを試みる。たいていはグループ同士での語らいから始まる。娘たちも恥じらいながらも、青年たちのちよつと卑猥な誘いの言葉や歌声、奏でる楽器の音色に耳を傾ける。男のほうは意中の娘が決まると、後日、畑仕事が終わったあとの夕方から晩にかけて、足しげく娘さんの家を訪ねるようになる。ベランダに意中の彼女を

誘い出して語り合うのだが、ここでも一対一のデートは許されず、たいていは兄弟姉妹や友人たちも一緒に、親も壁の向こうで聞き耳を立てていたりする。高床式のベランダの上、月明かりのもと、ロマンチックな邂逅を重ねたのち、やがて互いの思いがひとつになればプロポーズとなる。

カレン族は純潔を重んじる社会である。相思相愛の関係になっても婚前交渉など決してあってはならない。しかしタイの社会風俗の変化に伴って、そのあつてはならないことが近頃は頻繁に起こるようになったので、そうした禁を犯しての結



婚の場合はやむなく罰金制度を設けるなどして対応しているようだ。

カレン族は母系的社会であり、結婚の形態も基本的には婿入り婚である。プロポーズは男性からであっても、形式とし



カレン男性による剣の舞



上3枚：伝統宗教を信仰するカレンの族の結婚儀礼の数々

ては仲介者を通して女性の側から求婚を行うという風習がある。結婚式の準備や段取りも新婦の側で執り行い、重要な儀礼の多くも新婦の家で行われる。儀礼的な贈答品は別として結納金など多額の婚資をやりとりする習慣はない（最近では他民族の影響を受けて男性側が結納金を支払わなければならない傾向にある）が、結婚後、新郎は1〜2年間、新婦の家で暮らすことにより、労働力として妻の実家に奉仕する。その後夫婦は独立を許されるが、たいていは妻の実家の近くに居を構えることが多い。

他の山地民の場合と同様、結婚式は農

閑期、寒期に集中して行われる。数日間を費やして行われる結婚式、披露宴を通じてのべつまくなしにお酒がふるまわれ、参列者は終始酩酊状態になる。そのため新婦側では儀礼、料理用にする豚や鶏に加えて、事前に米の蒸留酒（焼酎）を大量に造って用意しておかねばならない。

式の最初の日、新郎は友人や親せきに付き添われて、長い行列を作って新婦の家に向かう。花嫁側も同様に行列を作り村の入口のところで鐘や太鼓を打ち鳴ら



こちらはキリスト教徒のスゴーカレンの結婚式風景

してやってくる新郎の一段を待ち受け、村長や長老を中心に儀礼がおこなわれる。カレンのしきたりにより、新郎の両親はこれには同行することができず、新婦の家で式が執り行われている間は、家で待つていなければならない。

花嫁の村に到着したあとは、花嫁の家の階段のところで、花嫁が花婿の足に水をかけて清める儀礼、新郎新婦が雄と雌の鶏をおかずに同じお皿で、ご飯を食べる儀礼、また新郎新婦が酒を汲みかわし、参列者に酒をふるまう儀礼、新婦が白いワンピースから既婚者用のツーピースの民族衣装に着替える儀礼などを行う。

男たちは豚肉料理を肴に酒を酌み交わし、老人たちは長唄のような節回しの祝いの歌を掛け合いで歌い続ける。

新郎の親戚の団が帰路につくときも、新婦の村の入り口と新郎の村の入り口で、鶏を生贄にして酒を酌み交わす儀礼がおこなわれる。新郎はしばらく新婦の家にとどまり、後日新婦を伴って帰宅し、新郎の家でも宴が行われる。

カレン族は厳格な一夫一婦制で、ひと

たび結婚したら、離婚はめったなことでは許されない。また密通、姦通も霊のたたりが降りると信じられていて、厳罰が待ち受けている。

ヤオ族

ヤオ族の基礎知識

鶏頭の花を思わせる重厚な赤い襟巻き状の袖がついた上着に、藍染めのターバン、100以上のものパターンがあるといわれる細かい刺繍がちりばめられたモンペ風のズボン。ヤオ族の女性の民族衣装



盛装したヤオ族の女性

も、マニアックな民族衣装収集家をうならせてあまりある技術と芸術性を備えて

いる。さらに結婚式などの儀礼時には、女性達は銀のアクセサリをこの民族衣装に飾りつけて盛装する。

毎年チェンライのメンライ王祭りの会場で開かれる恒例の山岳民族美人コンテストでは、ヤオ族の女性が優勝することが多いが、これは色白で切れ長の目をもった顔立ちもさることながら、物量作戦によるゴージャスなアクセサリ群も少なからず得点に寄与しているかもしれない。

ヤオというのは自称ではなく、漢族やタイ族など他民族による他称である。自称は「ミエン」である。「ミエン」というのはヤ

オ語で「人」という意味である。実はヤオ族に限らず、多くの民族の自称は「人」を意味するものが多いのだが。ただし、「ミエン」はアクセントをちよつと変えると「精霊」とか「靈魂」というような意味になってしまうので要注意。

ヤオ族は、タイではチェンマイ県、チェンライ県、パヤオ県、ナーン県を中心に、173の村があり、6692世帯、44017人が住んでいる(2002年タイ山岳民族開発援助センター調べ)。タイ以外では、中国広東省、広西壮族自治区、雲南省、湖南省、ベトナム北部に分布する。

もともとは中国南部が民族の起源で、タイには100年ほど前、ラオス方面から移動してきた。漢族文化、特に道教の影響を強く受けていて、葬式や結婚式など儀礼の際には、漢字で書かれた文書を使用する。タイのヤオ族にあっても、年



ガウンの後ろにも銀貨がいっぱい

長の男性の中には漢字の読み書きができる人が多い。また、かつて中国の皇帝から与えられた耕作狩猟許可証である「評皇券牒」という文書を大切に保管しており、これにはヤオ族の始祖にまつわる神話も書かれているという。

土間式の家に住み、箸を使って食事するのも漢文化の影響である。

ヤオ族の結婚式

ヤオ族の結婚式に招かれると、新郎新婦の年齢が意外に高いカップルが多いのに気づく。ヤオ族にとって、私たちが通

常考えている事実上の「結婚生活」と儀礼としての「結婚式」は別物としてとらえられている。愛し合い、結ばれた若いカップルは、特に結婚式をあげるのでもなく、同居し、子どもをもうけ、育てることも多い。もちろんヤオ族においても、

いつかはちゃんとした結婚式を挙げなければ一人前の家庭と認められないのだが、挙式は急いで行う必要はない。きちんとした儀礼や披露宴を行うにはそれなりの資金が必要で、むしろ、ある程度の財をなしてから行うのが普通であるからだ。

また、式の日取りには村人の時間に余裕がある乾期という時期的限定も加わる。だから、新婦のお腹が大きい状態での結婚式、実質的な結婚から何年もたったあとの、2、3人の子連れでの結婚式などというのもけっこう珍しくない。結婚式と披露宴は、他の山住民と比べても、かなり盛大に行われる。三晩四晩と続くこともある。新婦の家でも新郎の家でも宴会が行われ、宴会の裏方は親戚縁者が総出で行う。何頭もの豚がつぶされて、酒と豚肉料理が振舞われる。村の中の広場では、子供や若者たちのために町のPA屋さんを雇って大音量のルーク・トゥンやルーク・クルンが流され、ディスコ大会になる。

嫁入りの前の晩、新婦の家では翌朝の花嫁衣装の着付けにかかる。新婦は翌朝、

定められた正確な時刻に、新郎の家に入らねばならない。新婦が新郎の家に入る時刻やそのしきたりは、クラン（氏族集団）によって異なるという。

土間の椅子に腰掛けた花嫁の頭には、まず全長1メートルほどはある巨大な

張りぼてで作られた黒い大帽子のようなかぶり物も載せられる。このかぶり物も重く不安定なので、布やガムテープでぐるぐる巻きにして固定する。傾いたりすると、うまくいくまで何度もやり直す。新婦はこのかぶりものが傾かないように朝まで背筋を伸ばした状態で過ごさねば



ヤオ族の花嫁行列。大きなかぶり物をしているのが花嫁

ならないから、ほとんど眠ることもできず、大変だ。

朝方になると、花嫁が前夜からかぶっていた舟形の土台には細かい刺繍が施された布がかけられ、さらに前方には新婦の顔を完全に覆うように、真紅の糸を

使った房をたらされる。この日本の「角隠し」のような風習は、彼らの伝説（盤古神話）によれば、ヤオ族がかつて犬だったところ、ヤオの男のところ人間的女性が嫁ぐことになり、犬と結婚することを恥じたその女性が顔を隠すためにそんな由来だという。

式の前、新婦は舟形のかぶりものをかぶって自分の家をまだ薄暗い早朝に出発し、花婿の家に向かう。最近ではトラックなどで移動するが、かつてはかなり遠く離れた村でも歩いて行列を行ったという。まず、ラッパ型の縦笛形の管楽器（チャルメラのような音がする）、真鍮のシンバル、手提げの木太

鼓、銅鑼といった編成の男だけの楽団が先頭をきって新婦の家を出る。続いて花嫁の父、嫁入り道具の入ったスーツケースを背負った若い女性、そして花嫁と続く。巨大なかぶりものをかぶって前方がよく見えないであろう花嫁は、前をいく



嫁入りの前夜からこのかぶり物を装着して待機する

スーツケースを背負った女性が体に巻いた白い布の端を掴みながら歩く。後ろからもう一人の付き添いの女性が花嫁のために赤い日傘をさす。そのあとはヤオ族の衣装で着飾った親族、友人の女性たちが数十名ほど列をなし、その脇を村の子供達が面白そうについていく。

この花嫁行列はヤオ族の結婚式におい



来賓や先祖の祭壇を前にして礼をする儀礼は夜通し続く

として認められるからである。花嫁が新郎の家に入ると、新郎の家の中で儀礼が行われる。シャーマンが先祖の祭壇の前で祈禱をし、酒の注がれた小さな杯を新郎新婦に飲ませる。日本でいえばいわゆる三三九度の杯である。そして水牛の角でできた2枚の板を宙に投げ、床に落ちたその角度などで新郎新婦の縁を占う。

また、儀式を終えたばかりの新郎新婦が来賓ひとりひとりに、おしぼりで顔や手を洗ってもらおうという儀礼もおこなわれる。朝の儀礼が終わると、新婦はやっとつかの間の休憩をあたえられ、新郎の家の居間で仮眠をとることができる。しかし、その夜、ふたたびハードな儀礼が待っているのだ。

夜7時頃、新郎の家では来賓を招いての儀礼と披露宴が始まる。祭壇を背にして、6、7人が座れる程度の来賓用の客席が設けられ、新郎新婦は二人並んで、次々に入れ替わる来賓と祭壇に向かって腕を組んで前に差し出し、立ったりしゃがんだり、頭をたれて礼をするという一連の動作をえんえんと繰り返す。その間、

例のチャルメラのような管楽器と太鼓、シンバルによる楽団の演奏が絶え間なく続く。

新郎は祭壇に向かって右側、新婦は左側に立つ。新郎はタオルを折り畳んだものを両手でつかみ、新婦は付き添いの女性が持つている長い襷の端をつかんで、新郎の動きに従って立ったりしゃがんだりする。一回の「礼」の動作に1分ほどかかり、最初の頃の来賓は位の高い人々ばかりなので、「礼」の動作を何度も繰り返さなければならぬ。15回くりかえせば10分以上かかる。やっている当人たちも覚えていられないのだろう、何回動作を繰り返したかをトウモロコシの粒で数える係の人も座っている。来賓は多い場合は何十組とあるため、この儀礼は深夜にまでおよぶことがある。立ったり、座ったりの動作を7時間以上も続けなければならぬのだ。

最初のうちはこの儀式を見物するギャラリーも多く、新郎の家の中は熱気に包まれているが、そのうちに飽きてきて、外へ出てしまふ。最後には新郎新婦とその付き人たちが、そして次々と入れ替わる来賓、楽団といった人々たちだけが、淡々と儀礼を遂行し続ける。楽団の人々も、5時間、6時間ぶ

つつづけの演奏はかなりきついらしく、時計が深夜0時をまわったころには、太鼓やシンバル担当のおじさんが、うつらうつら居眠りをしながらバチを叩いたりするのがほほえましい。

そのゆつたりとした、荘厳で退屈な儀式がえんえんと続いている間、隣の部屋では村人たちを招いての酒と豚肉三昧の宴会が繰りひろげられ、老人たちが詩吟のような節回しで伝統的な歌をうたい、家の外の広場では、深夜のオーブン・デイスコが二晩目を迎えてさらに盛り上がる。その喧騒と暗闇の狭間では、また新たなカップルが誕生したりするのである。



宴席は男女別々に設けられる

ては最初のクライマックスである。花嫁行列の一団が新郎の家の近くの広場に到着すると、いよいよ楽団の演奏も賑やかになり、村人の観衆も集まってきて、最初の儀礼が始まる。広場では花嫁を囲んで大きな輪ができ、まわりに席をあたえられた長老たちに酒が振る舞われる。

ヤオ族では、嫁入りのとき、新婦は家の正面の玄関から入ることを許されない。必ず勝手口から入る。花婿の家の祭壇の前で儀礼を終えてはじめて、その家の嫁

つも思うのですが、タイ人は安全性よりもファッションを優先するのか（確かにヘルメットをかぶると整えた髪の毛が乱れる）、それともヘルメットをつけるのが面倒くさいだけなのか。そして運転者の中には、赤ちゃんを片手に抱えて運転する人もいて、見ているだけで本当に怖い。最後に傘。これにも度肝を抜かれま

す。雨を降っているというだけで車道はすぐ危ないというのに傘をさして運転する人がいるのです。風がきつく、傘に気を取られて事故を起こさないかといつも心配になります。が、雨の日だけではなく、日がすこく差している時にも日傘として傘をさしながらバイクを運転している。すごいぞタイ人。（奈津季）

語で叫びながら嬉々として追いかけてまわるようになった。

●昆虫採集には妻も珍しく協力的で、せっせと庭でトンボやらセミなどを採ってきては息子に献上している。が、妻はなんと、捕ってきたトンボの翅を全部むしってから息子に差し出しているのだ。翅をもがれてみじめな姿になったトンボはか細い足だけを使って床をヨロヨロとはいまわっている。「なんだってこんなことを！」と問うと、「だって翅があったら逃げちゃうじゃないの」そりやそうだけど。昔流行った「あのねのね」の歌を思い出した。赤とんぼ、翅をとったらアブラムシ…。脚をとったら柿の種云々。それにしてもこれではトンボのアイデンティティーと尊厳はどこへやら…。

●思いおこせばラフ族をはじめ山民の人たちは、暑期になると林でツクツクボウシぐらいの大きさのセミを大量に捕って食用にしている。トリモチを先端に付けた竿で器用に採集するのだが、捕った先からいきなりあの美しく透明な翅をむしり取って、まるで野いちごでも収穫するよううに袋に詰め込んでいる。妻にとっ

てはトンボの翅をむしるぐらいあたり前のことなのかもしれない。ところで、最近では私自身も妻によって翅をむしられたトンボの心境ではあるのだが…。（隆）

里親大募集中です！

さくらプロジェクトでは新規里親を大募集中です。今年度も約10名の子どもたちが、みなさまのご支援を待っています。会費は年間6万円。よろしくお願ひします。お申し込みにあたっては、お電話、FAX、メール、郵送、どんな方法でもけっこうです。里親入会希望とお伝えください。



申込書送り先 SAKURA PROJECT 364/1 M3
B. NAMLAT T. RIMKOK A. MUANG C.
CHIANGRAI THAILAND 57100（電子メールアドレスは pjsakura@hotmail.com）
お振込先：郵便振替 口座番号 00200-0-71164 タイ山岳民族・サクラ基金
電話でのお問い合わせ（タイ）+66-53-750560（FAXも）+66-86-1158113
（日本）03-5859-8456 芝浦工業大学清水研究室

さくらプロジェクトにご協力ください

★里親会員 年会費 60,000 円

ひとりの子どもを、一定期間（3年以上を目安）継続して援助していただけることが条件です。年2回のペースで、里子から手紙（日本語訳付き）や写真が届きます。さくらプロジェクトでは、子どもの勉学意欲や家庭の状況に応じて、中学卒業まで、もしくは高校、大学までを支援対象としており、高校生以上の生徒は二重支援となりますが、おふたりの里親でひとりの支援ということも可能です。

★さくらエコホームの里親会員

年会費 30,000 円

さくらエコホームの子どもたち全員の里親です。特定の里子から手紙は届きません。年1度、「さくらエコホーム通信」または子どもたちからのビデオレター（メディアはVHS、DVDなど）をお送りします。

★一般会員 年会費 10,000 円

さくらプロジェクトの趣旨に賛同していただけるかた。会費はさくら寮の運営のほか、シャトーブー小学校支援、ホイメリアム小学校パラン寮支援など各プロジェクトの活動資金・運営費に使われます。

★さくら基金 随時

プロジェクトに必要な設備、備品、施設建設費などに使われます。

★ナハちゃん=ジョイさん基金

随時

再生不良性貧血という難病のため亡くなったさくら寮生、ナハ・ジャブーちゃんと、慢性腎不全のために亡くなった寮母のヌッチャナート（ジョイ）・ロンチャイカムさんへの支援金をもとに設立された基金です。さくらの子どもたちやスタッフのための医療費基金として使われます。

★三輪さん個人への応援

随時

日本事務局からのお願いです。ようやくささやかなお礼を三輪さんへお渡しできるようになりました！しかし、昨年以降の世界的な景気の後退の影響で、里親基金、一般の寄付金ともに減少しており、十分な予算の確保が厳しくなりつつあります。三輪さん個人への応援も、随時受けつけております。

★古着・文房具・生活用品

随時

チェンラーイのさくらプロジェクトまで郵便局から船便でお送りください。現在、古着のほうは比較的在庫があり、日用品、生活用品、文房具のほうをより必要としています。お送りいただく品物によっては多額の関税がかかる場合があります。できれば税金がかかりやすいEMS便、航空便をさけ、船便にてお送りいただき、内容物、商品名には中古品とお書きください。以下は衣類以外に必要としているものの一例です。石鹸、洗剤、歯磨き、シャンプー、生理ナプキン、食器、調理器具（スプーン、フォーク、ナイフ、カップ、皿、包丁、まな板、鍋、フライパンなど）寝具（布団、毛布、枕、シーツ）バスタオル（なるべく新しいもの）、カーテン生地、アルカリ乾電池（単三、単四 新品のもの）、壁掛け時計、懐中電灯、体温計、血圧計など（電池で駆動する電化製品）運動靴（白地で他の色の模様が入っていないもの）色ガムテープ（粘着テープ）、修正液、ハサミ、ホッチキス、黒か青のボールペン、水彩絵の具、デジタルカメラ（学校の生徒の宿題で最近、デジカメで写真を撮ってレポートするというものが増えてきました）バッグ（旅行バッグ、ナップサック）、スポーツ用品（サッカーボール、バレーボール、ピンポンボールなど）DVD、CD。なお、日本からご発送の場合、送り主のご住所ご氏名は日本語で記入していただければ幸いです。メールアドレスも併記していただければ、到着後、メールにてお知らせします。

基金の振込先

振込先：郵便振替

口座番号：

00200-0-71164

口座名：タイ山岳民族・サクラ基金

振込先：銀行口座

三菱東京UFJ銀行和光駅前支店

普通預金 3507003

名義 さくらプロジェクト 日本事務局

代表 風間茂

★さくらプロジェクト事務局

さくらプロジェクト 代表 三輪隆
さくらプロジェクト 顧問 畑聰一
日本事務局 代表 風間茂
事務局長 清水郁郎

★住所

SAKURA PROJECT
364/1 M3 B. NAMLAT
T. RIMKOK A. MUANG
C. CHIANGRAI THAILAND
57100

☆電話+FAX タイ事務局（国際電話になりますが、日本語で対応します）+66-53-750560 携帯 +66-86-1158113
日本事務局 03-5859-8456 芝浦工業大学清水研究室

☆メール sakura@loxinfo.co.th（三輪宛）
pjsakura@hotmail.com（三輪宛）
☆ホームページ（日本語、英語）

<http://chmail.loxinfo.co.th/~sakura>

★タイ・スタッフ

三輪隆（代表・コーディネーター）
ペン・ジャチョン（プロジェクト・マネージャー）
プアバン・アイチャー（シャトーブー村幼稚園教員）
シリントラー・パテ（さくら寮寮母）
タンヤラット・シースワン（経理担当）
ワナサナン・サボン（エコホーム寮母）
ラッポン・ワタナソパン（寮父、スクールバス運転）
山中俊彦（ボランティア）
木下奈津季（ボランティア）

★日本事務局スタッフ

岡山 豊 岡山陽子 風間 茂
風間玉美 金子泰輔 清水郁郎

★翻訳ボランティア

タイ語 アーサーパン友美子 薄真理子
阪本法子 志賀宏 島村由紀子
清水郁郎 貝瀬花絵 山岸庸子
村田めぐみ 雨窪綾美 水上裕子
室町亜希 酒向奈穂子 澤田佳奈枝

英語 貞安実 田尻可納子

お知らせ

さくらプロジェクトの住所、番地が少しだけ変わりました。現在のところ旧住所でも郵便物は届いていますが、今後は以下の宛先までお送りください。

364/1 M3 B. NAMLAT T. RIMKOK
A. MUANG C. CHIANGRAI THAILAND
57100です。電話番号などはこれまでと同じです。

さくら通信42号

発行 さくらプロジェクト

編集人 三輪隆

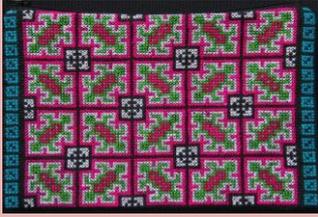
発行日 2011年9月5日

Printed in Chiangrai Thailand

さくらっ子たちの刺繍ポーチ

10月のグローバルフェスタで販売します。サイズは縦約14cm×横約17cm。ほかにも多数あります。

ナコー・アイソー
(ラフ・中2)



ナロー・ジャウー
(ラフ・中2)



ピヤヌット・セイヤー
(リス・中1)



ハルタイ・センポー
(ラフ・小6)



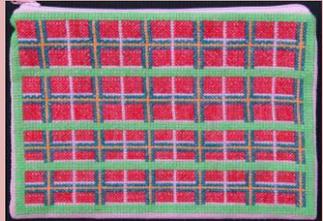
カンチャナ・レパイ
(ラフ・小4)



パチャリン・パイ
(ラフ・小6)



ナトー・エテ
(ラフ・小5)



パチャリン・パイ
(ラフ・小6)



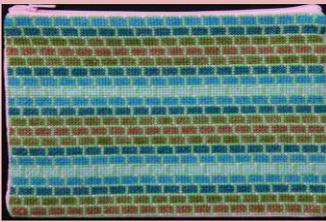
ラサミー・ウオンアピチ
ヨン(モン・高3)



サシトン・マヨ
(アカ・中1)



ケオカーン・ヨーポ
ツプ(カレン・高2)



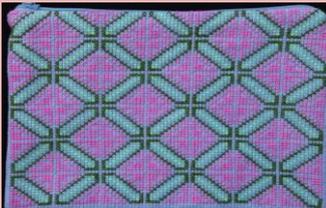
ウイチユダー・セイ
リー(リス・小5)



ハルタイ・センポー
(ラフ・小6)



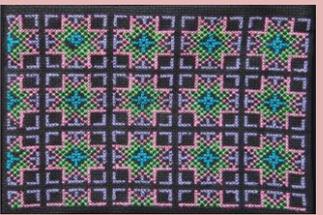
ラサミー・ウオンアピチ
ヨン(モン・高3)



パチャリン・パイ
(ラフ・小6)



カンテイダー・セン
カワー(ラフ・中1)



トウリヤダー・アピボ
ンサック(ラフ・中3)



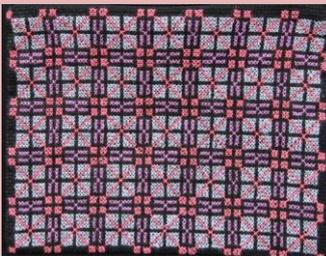
ミチュ・カラ
(アカ・高2)



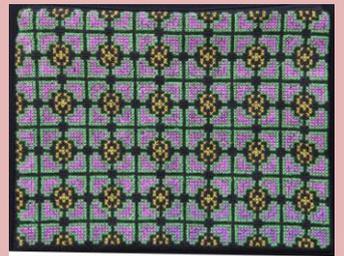
カンヤー・サクシット
ピンヨー(リス・高3)



テイチャコン・ウイセツト
グンタウイー(アカ・中2)



サシトン・マヨ
(アカ・中1)



グローバルフェスタ出展の民芸品です

さくらプロジェクトのブースで販売します。特価品もあり。ぜひ見に来てください。



象の財布(小) 50円



象の財布(大) 1個100円



リス族財布200円



リス族財布 1個200円



←リス族バッグ500円 デジカメケース1個 250円 二段デジカメ携帯ケース1個350円



リス族ポーチ 1個200円



ポーチ型キーホルダー1個150円



携帯ケース1個150円



象のポーチ1個400円



携帯ケース1個250円



モン族のスカート風バッグ 1000円



モン族の小銭入れ1個 300円



魚のポーチ600円



モン族の財布1個100円



ペットボトル入れ400円



モン風バッグ1200円



アカ族のバッグ1000円